

科目名	憲法	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	坪田 芳典	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間	講師の指定した日		試験期間	授業最終日	
授業の目的	憲法は「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。国家権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。さらに、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することが、この授業のテーマである。				
授業の概要	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。				
授業の計画	1. 憲法と立憲主義・日本憲法史 2. 日本国憲法の構成と基本原理 3. 基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等 4. 精神的自由権 5. 身体的自由権 6. 経済的自由権 7. 社会権 8. 参政権と国務請求権 9. 統治機構の基本原理 10. 国会と立法権 11. 内閣と行政権 12. 裁判所と司法権 13. 財政 14. 地方自治 15. 憲法改正 16. 期末試験				
成績評価方法	期末試験の結果に基づいて評価する。				
テキスト	配布プリント				
持ち物	適宜プリントを配布				
履修上の 注意事項					

科目名	比較憲法	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	担当講師	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼 選択必修
			全		
レポート期間		試験期間		授業最終日	
授業の目的		① 社会的な事象を比較するとはいかなる意義および特色を有するのかを理解し、物事に対する比較的な検討を行う視座を養う。 ② 諸外国の憲法史について考察することを通じて、近代立憲主義が有する意義（と限界）を正確に理解し、説明することができる。 ③ 諸外国の憲法および憲法学について考察することを通じて、日本の憲法のありようを相対的・客観的に理解し、説明することができる。			
授業の概要		授業は、日本における憲法やそれをめぐる議論を念頭に置きながら、諸外国における憲法の歴史、理念、制度、学説、判例の検討を行う形で進められる。			
授業の計画		第1回 比較憲法（学）とは何か 第2回 比較憲法の方法 第3回 憲法史①：近代市民革命と憲法 第4回 憲法史②：近代立憲主義の確立過程 第5回 憲法史③：近代立憲主義の現代的危機 第6回 比較憲法学各論①：フランス憲法 第7回 比較憲法学各論②：ドイツ憲法 第8回 比較憲法学各論③：アメリカ憲法 第9回 比較憲法学各論④：イギリス憲法 第10回 比較憲法学各論⑤：EU における基本権保障と民主主義、EU の諸機関、EU の権限体系 第11回 比較憲法学各論⑥：ロシア憲法 第12回 比較憲法学各論⑦：東アジア諸国の憲法（中国、韓国、台湾） 第13回 比較憲法学総論①：現代憲法下の人権保障 第14回 比較憲法学総論②：現代憲法下の統治構造 第15回 比較憲法学総論③：司法制度と違憲審査制 第16回 授業のまとめと試験			
成績評価方法		授業出席時間数が2/3を超えた者を対象として以下のように成績評価を行います。①授業への参加態度や授業時間内に実施される小テスト等の平常点：25%、②中間レポート：25%、③期末試験：50%。この結果、80 点以上の者に優、70 点以上の者に良、60 点以上の者に可を与え、60 点未満の者を不可とします。			
テキスト		（教科書）学校指定のもの。授業の初回で配布する日本国憲法の条文を毎回必ず持参してください。なお、本授業は受講生にノートをとってもらうことを前提としますので、ノートも忘れずに持参してください。 （参考書）授業の進展に応じて、適切なものをそのつど紹介します。			
持ち物		授業で配布する資料、授業の初回で配布する諸外国の憲法条文集、ノートを毎回必ず持参してください。			
履修上の 注意事項		受講生の到達度・理解度を確認し、把握するために、毎回の授業で簡単なペーパーの提出を求めます（長くてもレポート用紙 1 枚程度）。授業内容の理解を問う小テストの場合もありますし、授業の感想を自由に尋ねる場合もあります。これは主に成績評価の 25%を占める平常点として考慮されます。			

科目名	情報リテラシーと処理技術	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	講義・演習
担当教員	高橋 文子	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			集中		
レポート期間			試験期間	講師の指定した日	
授業の目的	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。				
授業の概要	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピューター(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。 また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算のソフトの基本操作を学習します。				
授業の計画	テキストによる講義 1. 情報化社会 2. コンピューターの発展 3. ハードウェア 4. ソフトウェア 5. 情報ネットワーク 6. インターネット 7. 情報システムの課題 パソコンを使用した演習 1. Windows の基本操作 2. 文書作成の基本①(書式設定) 3. 文書作成の基本②(図形・表) 4. 文書作成の基本③(ページ設定) 5. 表計算の基本①(書式設定・計算式・関数) 6. 表計算の基本②(グラフ機能・データベース機能) 7. プレゼンテーションの基本①(スライド作成・印刷) 8. プレゼンテーションの基本②(アニメーション・音楽)				
成績評価方法	試験及び課題提出・出席状況・授業態度等総合的に評価する				
テキスト	「情報リテラシーと処理技術」				
持ち物	配布テキスト、筆記用具				
履修上の 注意事項	配布資料は、ファイリングするなどして、なくさないこと				

科目名	英語コミュニケーション	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	田中 純一	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間		講師の指定した日		試験期間	
				授業 16 回目	
授業の目的		今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。			
授業の概要		本テキストは3つの Chapter からなっている。Chapter 1 は基礎的な項目が中心で、基礎が理解できていない人はまず Chapter 1 を丁寧に学習して、英語の基礎を理解するよう努力する。英語の基礎に自信がある人は Chapter 1 にはあまり時間をかけずに Chapter 2 に進み、英語の理解を深める。Chapter 3 では、保育の現場でのさまざまな生活場면을題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。			
授業の計画		1. 英語の文法（1）（動詞、形容詞・副詞） 2. 英語の文法（2）（比較、代名詞、疑問詞） 3. 英語の文法（3）（進行形、完了形、受動態） 4. 英語の基礎構文（1）（5文型） 5. 英語の基礎構文（2）（修飾語句） 6. 英語の基礎構文（3）（接続詞、仮定法） 7. 入園準備 8. 登園・降園 9. 室内遊び 10. 外遊び 11. 健康・病気・けが 12. 運動・お散歩 13. 食事 14. 工作・お絵かき 15. おたより・行事 16. 試験			
成績評価方法		試験・授業態度・出席状況で評価する			
テキスト		配布プリント			
持ち物		筆記用具・英和辞典または電子辞書を持参のこと			
履修上の 注意事項		授業中の携帯電話辞書使用は禁止とする			

科目名	健康科学	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	猪股 徹	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	健康は基本的には自分で管理・守るべきものである。近年、健康に関する情報が多く、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。健康の三本柱とストレス対処法について学び、現在の自分の生活を見直すことが重要である。本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の体力づくりができるようになることを目的とする。				
授業の概要	健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。				
授業の計画	1. 健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える 2. 運動の基礎理論 利便化された現代人の運動不足と健康管理について学ぶ 3. 運動生理学 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める 4. 救命救急 救急処置についての知識と対処法、A E D の取扱い方を学ぶ 5. 運動処方① 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ 6. 運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ 7. 健康日本 21 「健康日本 21」から自己の健康への課題を探る 8. 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ				
成績評価方法					
テキスト	「健康科学」(配本テキスト)				
持ち物					
履修上の 注意事項					

科目名	スポーツ(実技)	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	実技
担当教員	猪股 徹	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する知識や実技を行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむことができ、作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図る。また、ニュースポーツも体験・理解するなど、生涯にわたってスポーツに親しむ能力を育成する。				
授業の概要	各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。				
授業の計画	1. ガイダンス 2. バレーボール①基本練習 3. バレーボール②応用練習 4. バレーボール③ゲーム・審判 5. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス 6. バドミントン①基本練習 7. バドミントン②シングルのゲーム 8. バドミントン②ダブルスのゲーム 9. バスケットボール①基本練習・応用練習 10. バスケットボール②ゲーム・審判 11. 卓球①基本練習 12. 卓球②シングルのゲーム 13. 卓球②ダブルスのゲーム 14. ニュースポーツ学ぶ(ティーボールなど) 15. ウォーキングとその効果について ※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もあります。その際、個人的・集団的スポーツをバランスよく取り扱う。				
成績評価方法	受講姿勢、技能習得、ワークシート課題、筆記テスト				
テキスト	なし				
持ち物	筆記具（必要時のみ）				
履修上の 注意事項	受講姿勢は関心・意欲、集団活動への協調性を重視。 主体的な実践を通してスポーツ・運動を「楽しむ」ことを目指す。				

科目名	保育原理	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	武田 克江	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			全		
レポート期間	講師の指定した日		試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育原理では、保育・幼児教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追求する。				
授業の概要	保育原理では、子どもをとりまく環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて」保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関しての認識を深める。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回	保育とは何か（1） 保育の意義と目的			
	第2回	保育とは何か（2）①子どもの最善の利益を考慮した保育 ②保育の社会的意義			
	第3回	保育とは何か（3）①家庭との連携 ②地域との連携			
	第4回	保育所保育指針における保育の基本（1）①保育の目標と方法 ②養護と教育の一体性			
	第5回	保育所保育指針における保育の基本（2）①環境による保育 ②発達に応じた保育			
	第6回	保育所保育指針における保育の基本（3）①保育の計画と評価 ②子どもの健康と安全			
	第7回	保育所保育指針における保育の基本（4）①子育て支援 ②保育士の専門性			
	第8回	保育の質を高めるための方法（1）望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う			
	第9回	保育の質を高めるための方法（2）生活と遊びを通して総合的に行う保育			
	第10回	保育の質を高めるための方法（3）保育における個と集団への配慮			
	第11回	保育の思想と歴史的遍歴（1）欧米の保育思想の展開と保育施設の発展			
	第12回	保育の思想と歴史的遍歴（2）わが国における保育の歴史的遍歴			
	第13回	保育の制度（1）①保育所について ②幼稚園について			
	第14回	保育の制度（2）①認定こども園について ②家庭的保育事業について題			
	第15回	保育の現状と課題 ①日本の保育の現状と課題 ②外国の保育の現状と課題			

	第16回 まとめ・試験
成績評価方法	出席状況、試験、授業態度
テキスト	「保育原理」中央法規 フレーベル社「保育所保育指針解説」及び「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」
持ち物	テキスト・筆記用具
履修上の 注意事項	授業態度に注意する事 欠席しない事

科目名	教育原理	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	山縣 豊樹	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			全		
レポート期間	講師の指定した日		試験期間	授業最終日	
授業の目的	教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性について理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。				
授業の計画	第1回 教育、教育原理の意義・目的・特性とこどもと家庭福祉等との関連性				
	第2回 世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践				
	第3回 世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践				
	第4回 日本の教育思想				
	第5回 子どもの発達と教育				
	第6回 子どもの権利				
	第7回 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園				
	第8回 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園				
	第9回 世界における教育の歴史的変遷				
	第10回 日本における教育の歴史的変遷				
	第11回 公教育制度、義務教育制度				
	第12回 教師という仕事、教授法				
	第13回 教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化				
	第14回 教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング				
	第15回 教育における今日的課題③学校外との連携				
	第16回 まとめ・試験				
	成績評価方法	出席状況、試験、授業態度			
テキスト	講師指定テキスト、「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
持ち物	テキスト・筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に注意する事 欠席しない事				

科目名	こども家庭福祉	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	澤 伊三男	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育士としての子ども家庭福祉に関する基本的な知識の習得				
授業の概要	1、板書による基本的事項の説明 2、作成したレジュメを利用した学習 3、視聴覚教材（ビデオ等）利用による知識の習得 ※この科目は、児童福祉施設で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業計画	第1回 福祉の概念、主な社会福祉分野と専門職 第2回 子ども家庭福祉の概念と対象（well-being と well-fare） 第3回 世界人権宣言と子どもの権利条約 第4回 子ども家庭福祉の歴史的変遷（イギリスを中心として） 第5回 子ども家庭福祉の歴史的変遷 （日本の明治期から児童福祉法改正まで） 第6回 現代社会とこども家庭福祉1（少子高齢化の課題と家族構成の変遷） 第7回 現代社会とこども家庭福祉2 （子どもを中心とした生態学モデルと家族資源） 第8回 現代社会と子ども家庭福祉3（貧困がもたらす子どもへの影響） 第9回 現代社会と子ども家庭福祉4 （子どもへの虐待に至るメカニズムと虐待を防止するために） 第10回 ひとり親家庭への支援と子どもの健全育成 第11回 保育における子ども・家族支援に必要な視点 第12回 ひとり親家庭・多問題家庭の抱える生活課題と必要な視点 第13回 児童福祉法及び児童家庭福祉関連法 第14回 子ども家庭福祉に関わる保健・社会保障制度と社会手当 第15回 子ども家庭福祉の行政及び専門機関・児童関係施設 第16回 期末試験				
成績評価方法	ペーパーテスト、出席率、授業態度等を総合的に評価				
テキスト	配布したレジュメ				
持ち物	レジュメ、テキスト				
履修上の 注意事項	授業への積極的な参加				

科目名	社会福祉論	単位	2	学科	こども学科 (保幼)
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	大場 信一	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び、社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。				
授業の概要	子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史的変遷、その運営の制度や技術について理解を深める。 ※この科目は、児童福祉施設で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	1、社会福祉の理念…共生社会を目指して 2、社会福祉の歴史的変遷…基礎構造改革への流れ 3、子ども家庭支援と社会福祉…日本で里親が根付かないのは 4、社会福祉の制度と法体系…社会福祉事業法から社会福祉法へ 5、社会福祉施設 6、社会福祉の専門職 7、社会保障と関連制度…子どもの貧困をどう守る 8、相談援助の理念…当事者主体の推進 9、相談援助の対象者…虐待をする大人、された子ども 10、相談援助の方法…コーチング理論はどうして生まれたか 11、相談援助の課程～評価へ 12、情報提供・個人情報保護・第三者評価・苦情解決 13、諸外国の動向…施設ゼロ宣言をした国 14、在宅福祉、地域福祉の推進…ボランティア社会 15、今後の福祉の在り方…福祉コミュニティづくり				
成績評価方法	試験、授業態度、出席率				
テキスト	学校指定教科書：豊岡短期大学発行教本（両コース共）				
持ち物	筆記用具、配付資料				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加すること。				

科目名	社会福祉論	単位	2	学科	こども学科 (保)
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	澤 伊三男	開講 時期	1 年前期・後半	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			1 年後期・前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、相談援助のありかたや方法などについて学ぶ。				
授業の概要	子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために社会福祉の意義や歴史的変遷、その運営の制度や技術について理解を深める。				
授業計画	第1回 福祉とは何か：(welfare と well-being)、社会福祉の概念と理念				
	第2回 社会福祉の歴史的変遷：(1) 日本：古代～近代 慈善・社会事業から社会福祉へ				
	第3回 社会福祉の歴史的変遷：(2) 海外：(イギリスを中心としてエリザベス救貧法～NHS (国民保健サービス法) まで				
	第4回 主な社会福祉分野と専門職：保育、介護、地域福祉等と関わる専門職				
	第5回 子ども家庭庁の発足その目的：要保護児童とその家族への支援を中心に				
	第6回 ソーシャルワーカー (社会福祉士・精神保健福祉士) の定義と業務内容				
	第6回 福祉従事者の持つべき基本的態度：「傾聴」「共感」「支持」「協働」				
	第7回 相談援助 (ソーシャルワーク) の目的と構成要素： (1) 社会福祉実践の価値前提とエコロジカルアプローチの視点				
	第8回 相談援助 (ソーシャルワーク) の目的と構成要素： (2) バイステイクの七原則				
	第9回 戦後社会と現代社会：日本における経済的発展と停滞それに伴う社会構造の変化				
	第10回 人口ピラミッドの変化と未来の人口構造、小児高齢化問題				
	第11回 社会保障と人権擁護：社会保険と生活保護制度の役割				
	第12回 ノーマライゼーションの目的と現状：博愛主義と市民権				
	第13回 社会的包摂と社会的排除：人権擁護と差別問題				
	第14回 地域福祉：社会福祉協議会、地域包括システム				
	第15回 高齢者福祉：高齢者の在宅問題と施設生活の課題				
第16回 障害者福祉：発達障害者を中心とした障がい児家庭の抱えている課題					
修了試験					
成績評価方法	ペーパーテスト、出席率、授業態度等を総合的に評価				
テキスト	授業開始時配布したレジュメ、学校指定教科書、豊岡短期大学発行教本、				
持ち物	上記レジュメ、豊岡短大テキスト				
履修上の注意事項	授業への積極的な参加				

科目名	こども家庭支援論	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	小橋 明子	開講 時期	2 年後期	必選区分 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業のねらいと概要		保育者が保護者に対する子育て支援の役割は二つあり、一つ目は保育所に通園する保護者支援と、二つ目は地域の保護者の支援があります。 乳幼児期の発達を促すためには保護者との情報共有は必須であり、情報を共有する機会は、保育所であれば送迎時や行事等があり、地域の保護者とは園庭開放や地域子育て支援（子育て支援センター等）があります。この授業は子育て支援のあり方や親や子どもを取り巻く背景について学びます。			
到達目標		①保護者や子どもを取り巻く環境について述べることができる ②子育てに関する関係機関や役割について述べることができる ③子育て支援について考えることができる			
準備学習 事後学習		新聞やニュース等、子育てに関することは日頃から情報を得ていること			
授業計画		1 子ども家庭支援論の意義と体制 2 家族とは 3 家族の変化と保育相談 4 保育所における保育と子育て支援（保育士の役割） 5 子どもの人権と法制度（子どもの最善の利益とは） 6 保護者と子どもの成長の喜びの共有（養育能力の向上） 7 特別な対応を要する家庭への支援 8 ひとり親家庭の子育て支援について 9 保護者同士の交流（グループワークの進め方） 10 児童虐待の現状 11 児童虐待の予防に向けて 12 支援困難事例の展開と関係機関の役割 13 要保護児童対策地域協議会とは 14 世界の子育て支援 15 地域の子育て支援 16 まとめ・テスト			
授業評価方法		授業態度 10% レポート・小テスト 10% テスト 80%			
テキスト		「子育て支援」 小橋著者 中山書店			
持ち物		教科書、配布プリント等			
履修上の注意事項					

科目名	社会的養護Ⅰ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	佐藤 恵美子	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間	講師の指定した日		試験期間	授業最終日	
授業の目的	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. こどもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職などについて理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
授業の概要	子ども・家庭を取りまく環境について理解を深め、さらに現在の様々な社会的養護にかかわる課題とその対応、将来的な展望について考察を深める。				
授業の計画	第1回 社会的養護の理念と概念 第2回 社会的養護の歴史的変遷 第3回 社会的養護の基本 第4回 児童の権利擁護と社会的養護 第5回 社会的養護の制度と法体系 第6回 社会的養護の仕組みと実施体系 第7回 家庭的養護と施設養護 第8回 社会的養護の専門職・実施者 第9回 施設養護の基本原則 第10回 施設養護の実践 第11回 施設養護とソーシャルワーク 第12回 施設等の運営管理 第13回 倫理の確立 第14回 被措置児童等の虐待防止 第15回 社会的養護と地域福祉 第16回 まとめ・試験				
成績評価方法	レポート・試験・出席率				
テキスト	社会的養護Ⅰ：豊岡短期大学発行教本（両コース共）				
持ち物	テキスト・筆記用具				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加すること				

科目名	保育者論	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	山縣 豊樹	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、保育の意義、保育者の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。さらに、保育は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、保育への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき保育のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す保育者像の確立を図る。				
授業の概要	本授業は望ましい保育者とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は保育者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互役な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、自覚を高める授業の展開をする。				
授業の計画	第1回： 保育の意義・定義・保育者とは何か 第2回： 保育者に求められる資質・能力 第3回： 保育者養成の歴史 第4回： 保育者の資質と役割 第5回： 指導計画(保育のねらい・内容) 第6回： 保育者の仕事・義務・研修 第7回： 保育者の職場環境・保育者の制度的な位置付け 第8回： 中間試験 第9回： 保育者の任用と服務 第10回： 保育現場におけるこどもとの関わり(あそび・環境) 第11回： 保育現場における家庭との連携・支援・地域との連携 第12回： 保育観の変遷と教員(保育者)の役割 第13回： 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携(接続カリキュラム) 第14回： 今日的な教育課題に対応するために 第15回： よい保育者になるために 第16回： 総括・期末試験				
成績評価方法	中間レポート・中間/期末試験・受講態度によって総合的に評価する				
テキスト	和田幸司 他編「教職論」 フレーベル社「幼稚園教育要領解説」および「幼稚園教育要領」 保育所保育指針				
持ち物	ノート又はルーズリーフ・ファイル等プリントを保管できるもの・筆記用具				
履修上の 注意事項	グループワークなどでは、積極的な議論への参加、意見の評価を期待します。				

科目名	保育の心理学	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	岸 靖亮	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	1、保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2、子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業の概要	幼稚園、保育園における園児とのかかわりについて、心理学を基礎にして考察する。特に子どもの発達、子どもの相互のかかわりの意味を理解し、その援助の在り方について、基本的な理解を促すことを目的とする。				
授業の計画	第1回 1. 保育と心理学 (1) 発達とは・こどもの発達を理解することの意義 第2回 (2) 発達の原理 第3回 (3) 発達段階と発達課題 第4回 2. 子どもの発達の理解 (1) 現代の発達理論：ピアジェ 第5回 (2) ピアジェの認知発達理論 第6回 (3) 現代の発達理論：エリクソン 第7回 知覚の世界 第8回 乳児の知覚 第9回 パーソナリティ 第10回 遊びの発達 第11回 3. 人との相互的関わりと子どもの発達 (1) 愛着の形成と発達 第12回 (2) 愛着の個人差 第13回 精神保健 第14回 脳神経科学からみる症例 第15回 まとめ 第16回 試験				
成績評価方法	出席率、授業態度、試験				
テキスト	無し（ノートを取り、自身で資料を作成する）				
持ち物	筆記用具、ノート				
履修上の注意事項	授業には意欲的に取り組み、毎時間ノートをしっかり取る				

科目名	こどもの発達と家庭支援	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	渡辺 隼人	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間	講師の指定した日		試験期間	授業最終日	
授業の目的	生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解する。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。				
授業の概要	生涯発達に関する知識を深め、乳幼児期から老年期に至る発達段階と発達課題等について学ぶ。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、子育て家庭に関する現状と課題について修得する。家庭教育支援上の課題についても学ぶ。				
授業の計画	第1回 乳児期の発達 第2回 幼児期の発達 第3回 学童期の発達 第4回 青年期の発達 第5回 成人期・中年期の発達 第6回 老年期の発達 第7回 家族・家庭の意義と機能 第8回 親子関係・家族関係の理解 第9回 子育ての経験と親としての育ち 第10回 子育てを取り巻く社会的状況 第11回 ライフコースと仕事・子育て 第12回 多様な家庭とその理解 第13回 特別な配慮を要する家庭 第14回 子どもの生活・生育環境とその影響 第15回 子どもの心の健康に関わる問題 第16回 まとめ・試験				
成績評価方法	試験・出席率				
テキスト	学校指定テキスト				
持ち物	テキスト・筆記用具				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加すること				

科目名	こどもの理解と援助	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	岸 靖亮	開講 時期	2 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として次に掲げる心理学の実践的内容について学習する。 1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。 3. 保育における発達援助について学ぶ。				
授業の概要	本講座では、専門職としての対人援助職の理論と技術について習得し、保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。また、子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。				
授業の計画	第1回 子どもの実態に応じた発達や学びの把握				
	第2回 子どもを理解する視点①				
	第3回 子どもを理解する視点②				
	第4回 子どもを理解する方法①				
	第5回 子どもを理解する方法②				
	第6回 子どもの理解に基づく発達援助				
	第7回 まとめ				
	第8回 試験				
成績評価方法	出席状況 受講態度 試験				
テキスト	無し（ノートを取り、自身で資料を作成する）				
持ち物	筆記用具、ノート				
履修上の 注意事項	授業には意欲的に取り組み、毎時間ノートをしっかり取る				

科目名	こどもの保健	単位	2	学科	こども学科(保幼)
		時間	1 6	授業形態	講義
担当教員	奥野 啓子	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	①子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かす。 ②子どもを取り巻く多様な環境を理解し、他者との連携をとりながら保育を行なうことができる。				
授業の概要	①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的・生理的・社会性も踏まえた精神機能の発達について理解する。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び適切な対応について理解する。 ③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。				
授業の計画	第1回 子どもの心身の健康と保健の意義 小テスト① 第2回 身体発育および運動機能の発達と保健① 第3回 身体発育および運動機能の発達と保健② 小テスト② 第4回 生理機能の発達と保健 小テスト③ 第5回 精神機能の発達と保健、子どものこころとからだ（虐待含）小テスト④ 第6回 子どもの心身の健康状態とその把握 小テスト⑤ 第7回 子どもの疾病の予防および適切な対応 ①感染症の基礎知識 第8回 ②子どもの感染症と予防および対策 小テスト⑥ 第9回 アレルギー疾患 小テスト⑦ 第10回 口と歯の健康 小テスト⑧ 第11回 先天性疾患と早期発見（障害児含） 小テスト⑨ 第12回 その他の疾患 ①循環器 ②呼吸器 小テスト⑩ 第13回 ③消化器 ④泌尿器 小テスト⑪ 第14回 ⑤脳神経 ⑥内分泌 小テスト⑫ 第15回 ⑦感覚器 ⑧運動器 小テスト⑬ 第16回 最終試験				
成績評価方法	小テスト 30％・最終試験 60％・平常点（出欠席・授業態度） 10％で総合的に評価				
テキスト	「子どもの保健」豊岡短期大学 「子どもの保健」学健書院 「子どもの健康と安全」学健書院				
持ち物	テキスト・筆記用具				
履修上の 注意事項	小テストはテキスト・プリント・板書から出題しますので、きちんとノートをとってください。 小テストを中心に最終試験の問題がでますので、最終試験まで保管してください。 欠席した場合は、次の授業前にプリント・小テストを取りに来てください。				

科目名	こどもの保健	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	1 6	授業形態	講義
担当教員	奥野 啓子	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			集中		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	①子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かす。 ②子どもを取り巻く多様な環境を理解し、他者との連携をとりながら保育を行なうことができる。				
授業の概要	①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的・生理的・社会性も踏まえた精神機能の発達について理解する。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び適切な対応について理解する。 ③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。				
授業の計画	第1回 子どもの心身の健康と保健の意義 小テスト① 第2回 身体発育および運動機能の発達と保健① 第3回 身体発育および運動機能の発達と保健② 小テスト② 第4回 生理機能の発達と保健 小テスト③ 第5回 精神機能の発達と保健、子どものこころとからだ（虐待含）小テスト④ 第6回 子どもの心身の健康状態とその把握 小テスト⑤ 第7回 子どもの疾病の予防および適切な対応 ①感染症の基礎知識 第8回 ②子どもの感染症と予防および対策 小テスト⑥ 第9回 アレルギー疾患 小テスト⑦ 第10回 口と歯の健康 小テスト⑧ 第11回 先天性疾患と早期発見（障害児含） 小テスト⑨ 第12回 その他の疾患 ①循環器 ②呼吸器 小テスト⑩ 第13回 ③消化器 ④泌尿器 小テスト⑪ 第14回 ⑤脳神経 ⑥内分泌 小テスト⑫ 第15回 ⑦感覚器 ⑧運動器 小テスト⑬ 第16回 最終試験				
成績評価方法	小テスト 30％・最終試験 60％・平常点（出欠席・授業態度）10％で総合的に評価				
テキスト	「子どもの保健」豊岡短期大学 「子どもの保健」学健書院 「子どもの健康と安全」学健書院				
持ち物	テキスト・筆記用具				
履修上の 注意事項	小テストはテキスト・プリント・板書から出題しますので、きちんとノートをとってください。 小テストを中心に最終試験の問題がでますので、最終試験まで保管してください。 欠席した場合は、次の授業前にプリント・小テストを取りに来てください。				

科目名	こどもの食と栄養	単位	2	学科	こども学科(保幼)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	野原 純子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業8回目・16回目	
授業の目的	乳幼児期における栄養や食生活の重要性を知る。 さらに子どもの食育に関する体験活動や食育推進活動の実践方法について学ぶ。				
授業の概要	栄養の基本を知り、食物との関わりを児童福祉施設での具体的な実践に繋げる。				
授業の計画	第1回 子どもの健康と食生活 こどもの食生活の現状と課題 小児栄養の特徴				
	第2回 子どもの健康と食生活 小児の発育・発達と食生活				
	第3回 栄養に関する基礎知識 栄養と栄養素 消化・吸収・代謝				
	第4回 栄養素の種類とはたらき たんぱく質・脂質・炭水化物				
	第5回 栄養素の種類とはたらき ビタミン・ミネラル・その他				
	第6回 ライフステージに伴う食生活 乳児期				
	第7回 ライフステージに伴う食生活 幼児期				
	第8回 離乳・授乳支援ガイド				
	第9回 日本の食生活 摂取基準・バランスガイド・食生活指針				
	第10回 小児の病気Ⅰ				
	第11回 小児の病気Ⅱ				
	第12回 食物アレルギー				
	第13回 保育所給食 離乳食・幼児食・冷凍母乳 調理				
	第14回 食育について 食育基本法				
	第15回 栄養に関する最近の話題				

	第16回 まとめ レポート記載 参考文献：1)渡邊早苗など編集. 健康と医療福祉のための栄養学； 医歯薬出版株式会社；2018 2)堤ちはる 藤澤由美子編集. 子どもの食と栄養；中央法規；2019 3)久保田絹江. こどもの食と栄養；学校法人弘徳学園； 令和2年（第2版） 4)森脇千夏. イラスト子どもの食と栄養；東京数学社；2021
成績評価方法	試験・提出物・出席率・受講態度
テキスト	「こどもの食と栄養」豊岡短期大学発行（両コース共）
持ち物	テキスト・筆記用具・ノート・電卓（携帯電話付帯の電卓機能は使用不可）
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること。 欠席しないこと。

科目名	こどもの食と栄養	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	佐伯 千佳 野原 純子	開講	2 年前期・集中	必選区分・ 資格・免許	保・必修
		時期	2 年後期・後半		
レポート期間			試験期間	授業 8 回目・16 回目	
授業の目的	乳幼児期における栄養や食生活の重要性を知る。 さらに子どもの食育に関する体験活動や食育推進活動の実践方法について学ぶ。				
授業の概要	栄養の基本を知り、食物との関わりを児童福祉施設での具体的な実践に繋げる。				
授業の計画	第1回 子どもの健康と食生活 こどもの食生活の現状と課題 小児栄養の特徴				
	第2回 子どもの健康と食生活 小児の発育・発達と食生活				
	第3回 栄養に関する基礎知識 栄養と栄養素 消化・吸収・代謝				
	第4回 栄養素の種類とはたらき たんぱく質・脂質・炭水化物				
	第5回 栄養素の種類とはたらき ビタミン・ミネラル・その他				
	第6回 ライフステージに伴う食生活 乳児期				
	第7回 ライフステージに伴う食生活 幼児期				
	第8回 離乳・授乳支援ガイド				
	第9回 日本の食生活 摂取基準・バランスガイド・食生活指針				
	第10回 小児の病気Ⅰ				
	第11回 小児の病気Ⅱ				
	第12回 食物アレルギー				
	第13回 保育所給食 離乳食・幼児食・冷凍母乳 調理				
	第14回 食育について 食育基本法				
	第15回 栄養に関する最近の話題				

	第16回 まとめ レポート記載 参考文献：1)渡邊早苗など編集. 健康と医療福祉のための栄養学； 医歯薬出版株式会社；2018 2)堤ちはる 藤澤由美子編集. 子どもの食と栄養；中央法規；2019 3)久保田絹江. こどもの食と栄養；学校法人弘徳学園； 令和2年（第2版） 4)森脇千夏. イラスト子どもの食と栄養；東京数学社；2021
成績評価方法	試験・提出物・出席率・受講態度
テキスト	「こどもの食と栄養」豊岡短期大学発行（両コース共）
持ち物	テキスト・筆記用具・ノート・電卓（携帯電話付帯の電卓機能は使用不可）
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること。 欠席しないこと。

科目名	保育の計画と評価	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	菅原 大輔 佐藤 美香 持丸 智美	開講 時期	1年後期 全	必選区分・ 資格・免許	保・幼必修
レポート期間	授業第7・9回		試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者の捉え方一つ、環境の工夫一つで大きく変わるのが保育です。それを知ること、保育における計画の意味が大きく見えてくるものです。単に記録や計画を立てるだけではなく、それが適切であるかを確かめながら保育の本質を見極めていけるようになることを学んでいきます。				
授業の概要	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解すること。 2. 全体的な計画と指導計画に作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション・保育の基本 第2回 保育を計画する必要性 第3回 保育の計画の種類と役割 第4回 指導計画の必要性 - エピソード記述 第5回 保育所における計画の考え方について 第6回 保育課程と指導計画作成の考え方とポイント① 第7回 保育課程と指導計画作成の考え方とポイント② - レポートⅠ 第8回 指導計画作成の実際 第9回 日案から週案の作成 - 週案作成レポートⅡ 第10回 保育課程の見直しとプロセス 第11回 子ども主体の保育の実践 第12回 保育所における保育の評価の必要性 第13回 保育士及び保育所の自己評価 第14回 保育所と小学校における関係 第15回 保育所児童保育要録のあり方 第16回 まとめ・試験				
成績評価方法	レポート課題提出と試験結果を踏まえた総合評価とします。				
テキスト	「教育・保育カリキュラム論」 千葉武夫・那須信樹編 中央法規出版				
持ち物	テキスト・ノート(又はルーズリーフ式)・筆記用具				
履修上の 注意事項	授業はテキストの他に、参考資料などを配布することもあります。 各自、資料に関しての工夫をして下さい。				

科目名	保育内容総論	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	鈴木 寛典	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			前半		
レポート期間	講師の指定による		試験期間	授業最終回	
授業の目的	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。				
授業の概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回： 保育の全体的構造 ①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期のおわりまでに育ってほしい10の姿 ②領域の考え方と乳児保育の領域 第2回： 保育内容の歴史的変遷 ①変遷にみる特徴 ②変遷にみる課題 第3回： 養護と教育の一体的展開 ①養護的なかわりと教育的なかわり 第4回： 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 ②保幼少の円滑な連携 第5回： 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育 第6回： 全体的な計画の作成と指導計画の作成 ①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮 第7回： 保育の評価と保育の記録 ①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解 第8回： 保育内容の現代的課題について ①子育て支援 ②多文化共生保育				
成績評価方法	中間レポート・中間/期末試験・受講態度によって総合的に評価する				
テキスト	保育内容総論 豊岡短期大学発行 フレーベル社「保育所保育指針解説」、「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」				
持ち物	ノートまたはルーズリーフ・ファイルなどプリントを保管できるもの・筆記具				
履修上の 注意事項	グループワークなどでは、積極的な議論への参加、意見の評価を期待します。				

科目名	こどもの指導法 「健康」	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	池田 悦子	開講 時期	2 年後期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			後半		
レポート期間		講師の指定日	試験期間	授業 8 回目	
授業の目的		乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場で子どもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容について指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。			
授業の概要		乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第 1 回 領域「健康」の意味、保育の意義と児童観 ・こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」 第 2 回 乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 ・発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本 第 3 回 子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン ・子どもの健康と虐待 第 4 回 基本的生活習慣の獲得、幼児生活スタイルの現状と問題点 ・食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る 第 5 回 子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 ・発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解 第 6 回 安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 ・情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解 第 7 回 健康と自然環境、園外保育の活動内容 ・園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解 第 8 回 保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ			
成績評価方法		出席状況・受講態度、課題及び試験			
テキスト		「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
持ち物		テキスト、筆記用具、ノート			
履修上の注意事項		欠席しない事。演習については、積極的態度で参加する事。			

科目名	こどもの指導法 「人間関係」	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	武田 克江	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			前半		
レポート期間			試験期間	講師の指定した日	
授業の目的	近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動することや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。				
授業の概要	こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。 また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していく。				
授業の計画	1. 領域「人間関係」 ・ねらいと内容及びその取扱い ・保育者としての役割 2. 保育者としての環境作りと評価 ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む） ・保育構想と指導案（模擬保育） 3. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助① 4. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助② 5. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③ 6. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ 7. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤ 8. 地域の人々との多様なかかわりと導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）				
成績評価方法	科目試験の結果による評価 授業態度等を総合的に評価				
テキスト	「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				
持ち物	配布テキスト、筆記用具				
履修上の 注意事項					

科目名	こどもの指導法 「環境」	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	武田 克江	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間	講師の指定した日	
授業の目的	保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。				
授業の概要	こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を挙げて学習していく。 また、グループ学習を含め、視聴覚機材を使用し、より深く学んでいく。				
授業の計画	1. 環境とは （1）環境という言葉、環境の定義 （2）環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ （1）ねらいと内容 （2）指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 3. 身近な環境の構成（指導案の構成と作成） （1）指導案の作成による人的環境・物的環境の理解 （2）視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 （1）好奇心・探求心 （2）思考力の芽生え 5. 保育環境のデザイン （1）視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解 （2）指導案作成（実際の移動案作成とデザインを図示指導）と模擬保育の振り返りによる保育環境理解 6. 保育者の3つの役割 ①環境要素の一つ ②保育実践から見えるコーディネーター的役割 ③こども同士の関わり合いから考える保育構想 7. さまざまな環境との出会い （1）標識・文字との出会い （2）数量と図形・ものの性質との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題 （小学校との連携など） 指導案作成における3間（時間・空間・仲間）の重要性と表示方法指導と小学校との連携理解				

成績評価方法	科目試験の結果による評価 授業態度等を総合的に評価
テキスト	「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)
持ち物	配布テキスト、筆記用具
履修上の 注意事項	

科目名	こどもの指導法 「言葉」	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	武田 克江	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			前半		
レポート期間	講師の指定日		試験期間	授業 8 回目	
授業の目的	1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び（わらべうた・なぞなぞ・しりとり等）、文字体験（カルタ・標識・ごっこ遊び）等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。 5. 言葉に問題があり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等について個々に応じた配慮、支援を認識し理解することを目的とする。				
授業の概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先進となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文学への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 幼児教育と言葉 第 2 回 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 第 3 回 言葉を豊かに育む活動① 第 4 回 言葉を豊かに育む活動② 第 5 回 保育者と言葉のあり方 第 6 回 言葉を豊かに育む活動③ 第 7 回 言葉を豊かに育む活動④ 第 8 回 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携				
成績評価方法	出席状況・受講態度、課題及び試験				
テキスト	講師指定のテキスト				
持ち物	テキスト・筆記用具・ノート				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	こどもの指導法 「リズム表現」	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	田村 寿代	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼必修
			前半		
レポート期間			試験期間	講師の指定した日	
授業の目的		保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。 表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。			
授業の概要		幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。			
授業の計画		1. 領域「表現」についての基本的な考え方 2. 基礎リズム 3. 基本動作 4. タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 5. 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 6. 領域「表現」と小学校教科等のつながり 7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り 8. リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り			
成績評価方法		受講態度、授業態度等を総合的に評価			
テキスト		「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)			
持ち物		配布テキスト、筆記用具			
履修上の 注意事項					

科目名	こどもの指導法 「言語表現」	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	武田 克江	開講 時期	2 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			後半		
レポート期間	講師の指定日		試験期間	授業 8 回目	
授業の目的	本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。				
授業の概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる自動文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 こどもの言語表現指導法と指導案の作成 第 2 回 児童文化財による乳幼児の言語表現活動 第 3 回 言語表現が豊かになる児童文化財の指導 第 4 回 言語表現を育む児童文化財の作成と指導① 第 5 回 言語表現を育む児童文化財の作成と指導② 第 6 回 言語表現を育む児童文化財の作成と指導③ 第 7 回 言語表現を育む児童文化財の作成と指導④ 第 8 回 年間指導計画への位置づけと指導案の作成並びに幼保小連携について				
成績評価方法	出席状況・受講態度、課題及び試験				
テキスト	「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
持ち物	テキスト・筆記用具・ノート				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	こどもの指導法 「造形表現」	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	池田 悦子	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			後半		
レポート期間	授業内の指定日		試験期間	授業 8 回目	
授業の目的	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児期の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。				
授業の概要	「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成及び援助のあり方について、材料・用具・手法をもとに知識と製作体験とを関連づけながら学習を行う。さらに、乳幼児の表現活動の大切さを、造形的な表現の発達過程とその特徴を理解する中で学習を深める。				
授業の計画	第 1 回 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」） 第 2 回 幼児の造形表現の意義とその内容、こどもの発達段階における表現の特徴 第 3 回 こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価 第 4 回 えがく領域における教材研究と製作 第 5 回 つくる領域における教材研究と製作 第 6 回 造形あそび領域における教材研究と製作 第 7 回 えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の実践的な指導法や模擬保育等の学習 第 8 回 情報機器を使った造形活動及び教材の活用 まとめ				
成績評価方法	科目試験の結果による評価 授業態度等を総合的に評価				
テキスト	「フレーベル社「保育所保育指針解説」及び「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」				
持ち物	テキスト(保育所保育指針)・筆記用具・ノート クレパス・絵の具・筆・はさみ・のり				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加して下さい。				

科目名	絵本・紙芝居Ⅰ	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	中山 瞳	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	・乳幼児の発達における絵本・紙芝居の役割を理解し、保育現場での効果的な活用方法を学ぶ。 ・発達段階に合わせた絵本・紙芝居の特徴とその取り入れ方について実践し具体的に学習をする。				
授業の概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養う児童文化財（絵本、紙芝居、ストーリーテリング等）について学ぶ。				
授業の計画	第1回 授業説明・絵本の歴史について・絵本読み聞かせ 第2回 絵本の役割と必要性について、製作など活動の導入方法 第3回 年齢ごとの発達と絵本の選び方について、絵本読み聞かせ実践 第4回 紙芝居の歴史・紙芝居とは、絵本と紙芝居の違いについて 第5回 オリジナル作品製作 第6回 オリジナル作品製作 第7回 ファイル提出、紙芝居読み聞かせ実践 第8回 まとめ ※毎回、絵本（紙芝居）数冊を読みながらポイントを伝えていく				
成績評価方法	授業態度・オリジナル絵本 or 紙芝居提出、発表				
テキスト	必要に応じプリント配布				
持ち物	ファイル、筆記用具				
履修上の 注意事項	講義と実技を合わせて進めていきます。 実習、就職後に役立てるよう、ファイルを保管しておくこと。				

科目名	表現とこどもの運動	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	豊川 大地	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			後半		
レポート期間	授業 8 回目		試験期間	授業最終日	
授業の目的	本授業では、こども達が自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解説明し身に付ける。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども同士が工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に沿って展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める				
授業の概要	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開させていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。				
授業の計画	第 1 回：社会的背景を考慮しつつ ①運動遊びのねらい ②運動遊びの援助について(個別の支援計画等) 第 2 回：こどもの発達と運動について ①身体・形態・昨日・こころの発達発育 ②こどもと運動 第 3 回：運動遊びの基本的な動き ①基本運動(歩・走・跳・投・押・引・転・登) ②運動表現の要素(調整力：身体認知・空間認識) 第 4 回：身体的コントロール能力の向上 ①調整力中心の体づくり運動 ②音・色などの刺激に対応する運動 第 5 回：こどもの表現運動Ⅰ ①表現運動実施の教育的意義 ②身体的表現運動とは 第 6 回：こどもの表現運動Ⅱ ①身体表現運動のねらい ②実施上の留意点 第 7 回：発達段階と表現運動の実践(表現運動遊びの実践) ①年齢別発達における表現遊び(表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等) ②手遊びとリズム表現(糸まき、アルプス一万尺、げんこつ山の狸さん、むすんでひらいて、アイアイ…等) 第 8 回：表現運動(運動遊び)における安全指導 ②安全管理について(安全の考え方、物的管理、人的管理、用具管理等)				

成績評価方法	試験、授業態度、出席率
テキスト	
持ち物	筆記用具
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加すること。

科目名	乳幼児保育Ⅰ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	加福 圭子	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			全		
レポート期間	なし		試験期間	授業16回目	
授業の目的	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 5. 乳幼児保育における保育の計画・記録・評価について理解する。				
授業の概要	乳幼児の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の修得を目指す。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷 第2回 乳幼児保育の一般化への経緯 第3回 乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 第4回 保育所における乳幼児保育 第5回 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳幼児保育 第6回 家庭的保育等における乳幼児保育 第7回 3歳未満児の保健・衛生・安全危機管理を考慮した生活と環境 第8回 3歳未満児の遊びと環境 第9回 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 第12回 乳幼児保育における計画・記録・評価 第13回 職員間の連携・協働 第14回 保護者との連携・協働 第15回 乳幼児保育と子育て支援 第16回 まとめ、試験				
成績評価方法	筆記試験・発表内容・提出物・授業への取り組み等				
テキスト					
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加する事 授業中の私語、携帯電話は厳禁です				

科目名	乳幼児保育Ⅱ	単位	1	学科	こども学科(保幼)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	大高 恵	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			全		
レポート期間		試験期間		授業 8 回目	
授業の目的		1. 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する・ 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮と実際について、具体的に理解する。 4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 「乳児保育」とは 3 歳未満児の保育を示す。			
授業の概要		3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について学ぶ。養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第 1 回 乳児保育の基本① 第 2 回 乳児保育の基本② 第 3 回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際① 第 4 回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際② 第 5 回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③ 第 6 回 乳児保育における配慮の実際① 第 7 回 乳児保育における配慮の実際② 第 8 回 乳児保育における計画の実際 まとめ 試験			
成績評価方法		筆記試験・発表内容・提出物・授業への取り組み等			
テキスト		「乳幼児保育」			
持ち物		筆記用具・A 4 サイズのファイル、ルーズリーフ			
履修上の 注意事項		積極的に授業に参加すること			

科目名	乳幼児保育Ⅱ	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	大高 恵	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			集中		
レポート期間		試験期間		授業 8 回目	
授業の目的		1. 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮と実際について、具体的に理解する。 4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 「乳児保育」とは 3 歳未満児の保育を示す。			
授業の概要		3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について学ぶ。養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第 1 回 乳児保育の基本① 第 2 回 乳児保育の基本② 第 3 回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際① 第 4 回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際② 第 5 回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③ 第 6 回 乳児保育における配慮の実際① 第 7 回 乳児保育における配慮の実際② 第 8 回 乳児保育における計画の実際 まとめ 試験			
成績評価方法		筆記試験・発表内容・提出物・授業への取り組み等			
テキスト		「乳幼児保育」			
持ち物		筆記用具・A 4 サイズのファイル、ルーズリーフ			
履修上の 注意事項		積極的に授業に参加する事 授業中の私語、携帯電話は厳禁です			

科目名	こどもの健康と安全	単位	1	学科	こども学科(保幼)
		時間	8	授業形態	講義・演習
担当教員	奥野 啓子	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			集中		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	小児保健で習得した知識を統合し、子どもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び、発達・障害などに即した適切な具体的援助を学ぶ。				
授業の概要	・現代社会における子どもの健康問題や地域保健活動について理解する。 ・保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する。 ・子どもの体調不良や傷害（応急処置・救急処置）に対する適切な対応について理解する。 ・日常で行われる保育における保健的対応について理解する。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション、 保育における健康および安全の管理 1. 事故防止および安全対策（講義）（ワークシート） 2. 危機管理・災害への備え（講義） 第2回 子どもの体調不良などに対する適切な対応（講義・課題） 第3回 子どもの体調不調の対応（課題） 演習：手洗い・身体計測（ワークシート） 第4回 演習：手洗い・身体計測（ワークシート） 第5回 感染症対策（講義）（ワークシート）・嘔吐時の対応（ワークシート） 演習：ゴム手袋着脱 第6回 演習：緊急時対応（誤嚥・心肺蘇生・エピペン）（ワークシート） 誤嚥（課題）、環境整備（課題） 第7回 演習：緊急時対応（誤嚥・心肺蘇生・エピペン）（ワークシート） 個別的な配慮を要する子どもへの対応（講義）（課題） 健康および安全の管理の実施体制（講義）（課題） 第8回 最終試験				
成績評価方法	出席・授業態度・提出物および小テスト				
テキスト	「子どもの保健」豊岡短期大学 「子どもの健康と安全」学健書院 「子どもの保健」学健書院				
持ち物	テキスト・資料・筆記用具・演習時（エプロン・電卓・小タオル・上靴着用）				
履修上の 注意事項	演習・ワークシート・課題作成が多い科目です。事前に必要物品を指示しますので、必ず持参すること。提出物の期限は厳守。 <u>再試験というのはありませんので、不可になった場合は再受講となります。</u> <u>欠席・遅刻は厳禁です。</u> 授業や実習中の態度に注意すること				

科目名	こどもの健康と安全	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	奥野 啓子	開講 時期	2年後期 前半	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
レポート期間			試験期間		
授業の目的	小児保健で習得した知識を統合し、保育所、乳児院、幼稚園および児童福祉施設等保育現場において実践できる知識と技術を習熟する				
授業の概要	子どもの健康状態の観察や発育、発達とその評価等について基本的な知識を学び、実際に体験する。実習においては、沐浴実習、調乳の実習、身体測定の実習、実践活動を重視、さらに子どもの事故と応急処置等を行う。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション、講義：新生児の沐浴、成長発達、グループワーク 第2回 講義：保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデーター等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 演習：身体計測（身長・体重・胸囲・頭囲）実習、オムツ交換の実際・衣服の着脱の実際 第3回 演習：新生児の沐浴実習 第4回 講義：関連するガイドラインや近年のデーター等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 演習：DVD 学習：「赤ちゃん、この素晴らしい生命」、「乳児の栄養」、「離乳食」、「感染予防」 グループワーク 第5回 演習：調乳の実習、授乳方法の実際、 第6回 演習：離乳食の試食、薬の飲ませ方の実際、感染予防法 第7回 講義：成長発達の評価の実際、グループワーク 第8回 講義：関連するガイドラインや近年のデーター等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 演習：心肺蘇生法の実際、窒息への対応、グループ発表				
成績評価方法	出席・授業態度・提出物及ぶ試験				
テキスト	配布された資料				
持ち物	配布された資料・筆記用具・テキスト・エプロン・電卓・小タオル・上靴着用				
履修上の 注意事項	子どもにかかわる実習科目のため、保育実習同様の服装で受講すること 爪は短く切り、長い髪はしばって整える。提出物の期限は厳守 <u>再試験というのではありませんので、不可になった場合は再受講となります。</u> <u>欠席・遅刻は厳禁です。通学の集中講義なので、欠席・遅刻は不可になります。</u> 授業や実習中の態度に注意すること				

科目名	障がい児保育	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	小橋 明子	開講 時期	2 年後期 全	必選区分 資格・免許	保・幼・必修
レポート期間				試験期間	授業最終日
授業のねらいと概要		授業では障がいの捉え方や障害に対する基本的知識を学びます。 また障がいの種類や特性を理解し援助についても学びます。授業方法は、学生 の理解を深めるために視聴覚教材の活用を図り、さらに事例を通してより 具体的・実践的に学びます。			
到達目標		①障がいに対する理念や障がいの種類や特性を理解している ②保育現場でできる配慮や環境の工夫などを理解している			
準備学習 事後学習		授業では基本的な知識や技術を会得するが、障がいをもった子どもの理 解と支援を深めるためには、関連する多くの情報に関心を持ち主体的に授 業内容の拡大と深化を図ることが必要です。したがって、学外においても積 極的に障がい児に関心をもち授業と照らし合わせながら考えることが求め られます。			
授業計画		1 ガイダンス・障がい児保育の概要 2 「障がい」の概念・障がい保育の歴史 3 インクルージョンとは・保育者に求められる役割とは 4 脳の発達と障がい 5 障がい児の理解と保育における発達の援助 6 感覚統合について 7 視覚・聴覚障がい・言語障がい児の理解と援助 8 肢体不自由児の理解と援助 9 知的障がい児の理解と援助 10 発達障がい児の理解と援助 11 重症心身障がい児・医療的ケア児の理解と援助 12 特別な配慮を要する子どもの保育の実際 13 指導計画及び個別の支援計画の作成 14 発達を促す生活や遊びの環境・子ども同士の関わり合いと育ち合い 15 保護者や関係機関との連携 16 障がい保育の課題を考える・テスト			
授業評価方法		授講態度 10% レポート・小テスト 10% テスト 80%			
テキスト		「障がい児保育」 小橋編著 中山書店			
持ち物		教科書、配布プリント等			
履修上の注意事項					

科目名	社会的養護Ⅱ	単位	1	学科	こども学科(保幼)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	佐藤 恵美子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			前半		
レポート期間		講師の指定した日		試験期間	授業最終日
授業の目的		社会的養護を実践していくために、社会的養護にかかわる課題や専門職に求められる役割を遂行するために学びを深める			
授業の概要		子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。施設養護及び家庭養護の実際や社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解する。			
授業の計画		第1回 社会的養護における児童の権利擁護 第2回 社会的養護を担う専門職の職務と使命 第3回 家庭的養護と施設養護 第4回 施設養護におけるケアの流れ 第5回 支援計画の作成と実践と検証 第6回 社会的養護にかかわる専門的技術 第7回 社会的養護の今後の展望 第8回 まとめ・試験			
成績評価方法		課題・レポート・試験・出席率			
テキスト		講師指定			
持ち物		筆記用具			
履修上の 注意事項		積極的に授業に参加すること			

科目名	社会的養護Ⅱ	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	佐藤 恵美子	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			集中		
レポート期間		講師の指定した日		試験期間	授業最終日
授業の目的		社会的養護を実践していくために、社会的養護にかかわる課題や専門職に求められる役割を遂行するために学びを深める			
授業の概要		子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。施設養護及び家庭養護の実際や社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解する。			
授業の計画		第1回 社会的養護における児童の権利擁護 第2回 社会的養護を担う専門職の職務と使命 第3回 家庭的養護と施設養護 第4回 施設養護におけるケアの流れ 第5回 支援計画の作成と実践と検証 第6回 社会的養護にかかわる専門的技術 第7回 社会的養護の今後の展望 第8回 まとめ・試験			
成績評価方法		課題・レポート・試験・出席率			
テキスト		講師指定			
持ち物		筆記用具			
履修上の 注意事項		積極的に授業に参加すること			

科目名	子育て支援	単位	1	学科	こども学科(保幼)
		時間	8	授業形態	演習
担当教員	武田 克江	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・幼・必修
			前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。 子育て支援の意義や役割について理解し、保育者としての子育て支援の基本姿勢について関心を持ち、子育て支援の意義や役割、基本姿勢など、支援の実際を学ぶ。				
授業の概要	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。				
授業の計画	第1回 保育士として子育て支援にかかわるために 第2回 保育の専門性と子育て支援 第3回 保育所を利用している保護者に対する子育て支援 第4回 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 第5回 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） 第6回 地域の子育て家庭に対する支援 第7回 子どもの虐待の予防と対応 第8回 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解				
成績評価方法	試験及び出席状況と授業態度等、総合的に評価する				
テキスト	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に気を付け、積極的に授業に参加する事				

科目名	子育て支援	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	8	授業形態	演習
担当教員	武田 克江	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			集中		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。 子育て支援の意義や役割について理解し、保育者としての子育て支援の基本姿勢について関心を持ち、子育て支援の意義や役割、基本姿勢など、支援の実際を学ぶ。				
授業の概要	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。				
授業の計画	第1回 保育士として子育て支援にかかわるために 第2回 保育の専門性と子育て支援 第3回 保育所を利用している保護者に対する子育て支援 第4回 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 第5回 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） 第6回 地域の子育て家庭に対する支援 第7回 子どもの虐待の予防と対応 第8回 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解				
成績評価方法	試験及び出席状況と授業態度等、総合的に評価する				
テキスト	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に気を付け、積極的に授業に参加する事				

科目名	保育所保育指針Ⅰ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	講義
担当教員	加福 圭子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			前半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	保育所保育指針に沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。 保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握する。 保育所保育指針を深く学習する事を通し、専門的知識を高める。				
授業の概要	平成 29 年 3 月に改訂された保育所保育指針のポイントを総則から保育内容、健康及び安全の各章について、具体的な事例を交えながら学び、保育所において子どもの健やかな育ちをどう保障していくのか考察する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 授業内容、評価、持ち物等について 保育所保育指針について 第 2 回 第 1 章 総則 第 3 回 第 2 章 保育の内容（乳児）、小テスト 第 4 回 第 2 章 保育の内容（1 歳以上 3 歳未満児） 第 5 回 第 2 章 保育の内容（3 歳以上） 第 6 回 第 2 章 保育の内容（3 歳以上） 第 7 回 第 2 章 保育の内容（3 歳以上） 第 8 回 第 5 章 健康及び安全、 ①食育の推進 ②災害への備え 小テスト				
成績評価方法	出席率・授業態度・小テストを総合的に評価する				
テキスト	「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針（解説明含む）」 （ピンク色、通信教育補助教材）				
持ち物	保育所保育指針・A4 ファイル（どんな形でも可）				
履修上の 注意事項	・評価に関しては特に授業態度、小テストを重視する。 ・プリントを配布しますので、必ず A4 ファイルを用意すること。				

科目名	特別支援教育	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	渡辺 隼人	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			集中		
レポート期間	講師の指定日		試験期間	授業 8 回目	
授業の目的	特別な教育的ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。				
授業の概要	特別な教育的ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。				
授業の計画	第 1 回 特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程(特別支援教育とは) ①特別な教育的ニーズとは何か ②特別支援教育課程と学びの場				
	第 2 回 発達障害や軽度知的障害を持つ子どもの特性 ①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち ②子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び 第 3 回 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性 ①多様な子どものニーズの理解 ②多様な子どもの学びと生活 第 4 回 子どものニーズに合わせた支援 ①教育課程における支援 ②通常の学級における担任による支援 第 5 回 教育チームによる組織的支援 ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画 ②アセスメントに基づく計画と評価 第 6 回 特別支援教育コーディネーター ①特別支援教育コーディネーターの役割 ②外部教育資源との連携と協働 第 7 回 保護者・家庭支援と連携 ①保護者・家庭をとりまく問題 ②保護者・家庭とのつながりの重要性 第 8 回 特別な教育的ニーズを考える(現代的な視点から) ①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援				
成績評価方法	出席状況・受講態度、課題及び試験				
テキスト	「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
持ち物	テキスト・筆記用具・ノート				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	日誌指導Ⅰ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	船橋 麗可	開講 時期	1 年前期・後半 1 年後期・前半	必選区分・ 免許・資格	保・必修
レポート期間			試験期間	提出日を随時設定	
授業の目的	保育所実習に向けて、実習日誌の記録方法について学ぶ。 実習における日誌の必要性について理解し、有効な活用方法について学ぶ				
授業の概要	保育実習記録としての日誌のあり方について学ぶ。実習日誌の必要性及び記録の方法について模擬日誌作成の演習を通し、具体的に理解する。実習後の総括と自己評価及び課題の明確化につながる記録としての日誌の位置づけについても理解する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション、 第2回 各基礎項目の記入方法及びオリエンテーション時の日誌の書き方 第3回 保育所の一日の流れを知り、理解する 第4回 保育内容に沿った実習記録のあり方① 第5回 見学・観察実習時の日誌について 第6回 保育内容に沿った実習記録のあり方② 第7回 参加実習時の日誌の書き方 第8回 保育内容に沿った実習記録のあり方③ 第9回 部分実習時の日誌の書き方 第10回 保育内容に沿った実習記録のあり方④ 第11回 全日実習時の日誌の書き方 第12回 保育内容に沿った実習記録のあり方⑤ 第13回 保育の実践とその記録① 第14回 保育の実践とその記録② 第15回 保育所実習まとめの日誌について 第16回 まとめ				
成績評価方法	出席率・提出物（模擬日誌）・授業態度				
テキスト	必要に応じてプリント配布				
持ち物	辞書・A4ファイル（1，2年生共通、袋型又は2つ穴）				
履修上の 注意事項	・提出物は期間内に遅れの場合は減点、未提出の場合不可とする ・実習に向けての授業になる為、出席率と授業態度を重視する				

科目名	ピアノⅠ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	1年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人的レッスンでピアノを使用して学び、基礎固めをする。				
授業の概要	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスンでピアノを使用して学び、基礎的技術を習得する。初心者はバイエル教則本、経験者は個人のレベルに合った教則本を使用し、演奏技術及び読譜力の向上を目指す。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション ピアノ演奏技術を確認 第2～3回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について学習し、演奏する 第4～5回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法に気をつけながら演奏する。 第6～11回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子を学習し、演奏する 第12～14回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子などに気をつけながら演奏する。 試験曲の選曲をする。 第15回 試験曲を暗譜で演奏する。 第16回 試験・まとめ				
	実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価 ※バイエル 60 番以上であれば通常評価、50～59 番であれば可、49 番以下の場合には評価をつけることができません				
成績評価方法					
テキスト	・バイエルの教則本（こどものバイエルでもよい）※一部学校配布楽譜使用 ・進度の進んでいるものは各自のレベルの楽譜				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと 上靴を着用し、受講すること				

科目名	ピアノⅡ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	1. ピアノの基礎的技術を習得する。 2. 演奏技術及び読譜力の向上を目指す。 3. 初心者の進度目標はバイエル教則本 100 番とする。				
授業の概要	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスンでピアノを使用して学び、基礎的技術を習得する。初心者はバイエル教則本、経験者は個人のレベルに合った教則本を使用し、演奏技術及び読譜力の向上を目指す。初心者の進度目標はバイエル教則本 100 番とする。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション ピアノ演奏技術を確認 第2～3回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について学習し、演奏する 第4～5回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法に気をつけながら演奏する。 第6～11回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子を学習し、演奏する 第12～14回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子などに気をつけながら演奏する。 試験曲の選曲をする。 第15回 試験曲を暗譜で演奏する。 第16回 試験				
成績評価方法	実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価 ※バイエル 90 番以上で通常評価、81～89 可、～80 は評価をつけることができません				
テキスト	バイエルの教則本（こどものバイエルでもよい）※一部学校配布楽譜使用 進度の進んでいるものは各自のレベルの楽譜				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前練習をしておくこと 上靴を着用し、受講すること				

科目名	こどものうたⅠ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。				
授業の概要	「あいさつ」曲からレッスン（おはよう）（おべんとう）（おかえりのうた） 学生のピアノ進度に沿った弾きうたいを行い、保育所実習に備える。				
授業の計画	第1回	進度に沿った課題曲（発声法—姿勢・呼吸法） 挨拶のうた（おはよう・おべんとう・おかえりのうた）			
	第2回	課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法）			
	第3回	課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法）			
	第4回	課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法）			
	第5回	課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法）			
	第6回	課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法）			
	第7回	課題曲（歌詞に合った歌い方・フレーズに合った息つぎ、歌と伴奏 のバランス）			
	第8回	課題曲（歌詞に合った歌い方・フレーズに合った息つぎ、歌と伴奏 のバランス）			
	第9回	課題曲（歌詞に合った歌い方・フレーズに合った息つぎ、歌と伴奏 のバランス）			
	第10回	課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌）			
	第11回	課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌）			
	第12回	課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌）			
	第13回	試験曲の決定 課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌）			
	第14回	試験曲・課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌）			
	第15回	試験曲（仕上げ）・課題曲			
	第16回	試験 ※必ず前奏を入れる ※2番まで歌う（1番のみの曲は繰り返す）			
成績評価方法	実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価 ※あいさつのうた3曲（学校配布の簡易伴奏楽譜使用）・「こどものうた200」 を並行したレッスンを実施し、実技試験は「こどものうた200」より選曲 ＊ピアノ進度により楽譜の簡易化も可				
テキスト	こどものうた200・学校配布楽譜（あいさつのうた3曲）				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと 上靴を着用し、受講すること				

科目名	保育活動Ⅰ	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼必修
			前半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」に示される保育の内容を理解した上で、こどもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術について、実践を通して身に付ける。				
授業の概要	こどもの生活と遊びにおける様々な素材や教材などの特性の理解と、それらの活用や作成に必要な知識や技術を学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 えがく活動を利用した表現・集団遊び 第2回 つくる活動を利用した表現・集団遊び 第3回 えがく・つくる活動を利用した表現・集団遊び 第4回 身近な素材（廃材等）を利用した造形あそび（新聞紙） 第5回 身近な素材（廃材等）を利用した造形あそび （トイレットペーパーの芯等） 第6回 身近な素材を利用した造形あそび（紙コップ） 第7回 保育実習に向けての指導・援助と実際 第8回 まとめ、発表				
成績評価方法	出席状況、授業態度および作品、最終日の実技発表等を総合的に評価する				
テキスト	プリント（授業毎に配布） 「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
持ち物	・A4ポケットファイル（ポケット数の多い物）、ジャージ、上靴、筆記用具				
履修上の 注意事項	・積極的な受講態度を評価します ・髪は束ね、アクセサリは不可です ・専門職としての技術習得科目となる為、出席状況も重視します				

科目名	保育活動Ⅱ	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	藤田 莉菜	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			後半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	年齢に合わせた遊びを学び、保育所実習に向けて、乳幼児とかかわる実践的な力を身に着ける。実習に向けての心構えを習得する。				
授業の概要	保育所実習に向け、実際に子ども達と遊ぶ技術や指導の仕方を身につけ、学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション（授業の内容、評価について） 年齢に合わせた集団あそび 第2回 幼児向けの遊び① 実習時の自己紹介グッズ作成① 第3回 実習時の自己紹介グッズ作成② 第4回 部分実習時の集団あそび(4歳児用) 第5回 部分実習時の集団あそび(5歳児用) 第6回 異年齢の遊び(新聞紙あそび・じゃんけんの遊び) 第7回 部分実習時の集団あそびを考えよう(演習・実践) 最終試験① 第8回 部分実習時の集団あそびを考えよう(演習・実践) 最終試験②				
成績評価方法	出席状況 受講態度 日常点 発表				
テキスト	保育活動～プリント（授業毎に配布）				
持ち物	・ A4 ファイル（袋型又は2つ穴）、筆記用具 ・ 適宜、授業内で次回の授業の持ち物は伝えます				
履修上の 注意事項	・ 積極的な参加態度を評価します ・ 専門職としての技術習得科目となる為、出席状況も重視する ・ 試験欠席の場合は不可とする ・ 服装、持ち物等は必ず指示に従うこと				

科目名	パネルシアター	単位	1	学科	こども学科(保幼)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	持丸 智美 佐藤 美香	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			後半		
レポート期間			試験期間	授業 7・8 回目	
授業の目的		・保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・視聴覚教材であるパネルシアターを製作、実践することにより、視聴覚教材の一つであるパネルシアターについて学びを深める。			
授業の概要		こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。 児童文化財（パネルシアター）に親しむ体験を豊かにするための知識と技術を習得する。 素材の特性の理解とそれらの活用や作成に必要な知識及び技術について製作活動を通して学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第1回 パネルシアターについて（種類、材料、題材決定） 第2回 パネルシアター作成（絵人形作成） 第3回 パネルシアター作成（絵人形作成） 第4回 パネルシアター作成（絵人形完成・提出） 第5回 パネルシアター作成（パネル板作成） 第6回 パネルシアター作成（パネル板作成、台本読み合わせ、練習） 第7回 パネルシアター発表① 第8回 パネルシアター発表②（パネル板提出）			
成績評価方法		出席状況、授業態度、提出物、発表の総合評価			
テキスト		プリント（授業毎に配布）			
持ち物		・筆記用具…ポスカ・黒マッキー（学校配布） ・適宜、授業内で伝えます			
履修上の 注意事項		・積極的な参加態度を評価します ・専門職としての技術習得科目となる為、出席状況も重視する ・提出物は期限内に必ず提出すること			

科目名	パネルシアター	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	持丸 智美	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			後半		
レポート期間			試験期間	授業 7・8 回目	
授業の目的		・保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・視聴覚教材であるパネルシアターを製作、実践することにより、視聴覚教材の一つであるパネルシアターについて学びを深める。			
授業の概要		こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。 児童文化財（パネルシアター）に親しむ体験を豊かにするための知識と技術を習得する。 素材の特性の理解とそれらの活用や作成に必要な知識及び技術について製作活動を通して学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第 1 回 パネルシアターについて（種類、材料、題材決定） 第 2 回 パネルシアター作成（絵人形作成） 第 3 回 パネルシアター作成（絵人形作成） 第 4 回 パネルシアター作成（絵人形完成・提出） 第 5 回 パネルシアター作成（パネル板作成） 第 6 回 パネルシアター作成（パネル板作成、台本読み合わせ、練習） 第 7 回 パネルシアター発表① 第 8 回 パネルシアター発表②（パネル板提出）			
成績評価方法		出席状況、授業態度、提出物、発表の総合評価			
テキスト		プリント（授業毎に配布）			
持ち物		・筆記用具…ポスカ・黒マッキー（学校配布） ・適宜、授業内で伝えます			
履修上の 注意事項		・積極的な参加態度を評価します ・専門職としての技術習得科目となる為、出席状況も重視する ・提出物は期限内に必ず提出すること			

科目名	合奏指導	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	村田 昌史	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日（発表）	
授業の目的	歌、器楽合奏などを通じて幅広く幼児音楽を習得				
授業の概要	幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法などの授業				
授業の計画	第1回 基礎楽典（拍子、音符、休符の学習） 第2回 ミュージックベル合奏（説明、指導法） 第3回 年少～年長対象の器楽合奏（ピアノ、木琴、鉄琴、カスタネット他） （各楽器の説明） 第4回 曲に合わせた「リズム作成」の作り方（打楽器） 第5回 グループ分けでの器楽合奏（2～3グループ） 第6回 各グループで選曲 第7回 楽器割り当て（ピアノ・木琴・打楽器など） 第8回 発表・まとめ				
成績評価方法	実技、筆記評価、授業態度、出席率				
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200				
持ち物	筆記用具（ホチキス・定規）、こどものうた200、続こどものうた200				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	保育・教職実践演習	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	早坂 聡子 竹森 未知	開講 時期	2年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			集中		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		通信授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践指導力を身に付ける。			
授業概要		これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。			
実習計画		1. ガイダンス・教師の役割・総合的な保育 2. 学級経営・個と集団への配慮 3. 保幼小連携、特別支援教育（事例検討） 4. 保護者支援・家庭との連携 5. 幼児教育・保育における今日的課題（テーマの設定） 6. グループワーク（それぞれのテーマに基づいて） 7. グループワーク（それぞれのテーマに基づいて） 8. 発表・まとめと振り返り 9. 学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ（ロールプレイング） 10. 保育現場での対応（事例研究）課題のある子ども（幼児）の事例研究 11. 集団討論Ⅰ「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」 12. 保育計画と模擬保育 13. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望 14. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方 15. 学習のまとめ・自己の振り返り・今後に向けての課題			
成績評価方法		【通信授業】1~8 科目の成績評価：授業内小レポート、課題設定のテーマ、積極的な取り組み姿勢、協力する姿勢、発表（自らの言葉で想いを表現する）を総合的に評価する（主体的な姿勢を重視します） 【面接授業】 科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する			
テキスト		「保育・教職実践演習」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
持ち物		【通信】授業内で指示します			
履修上の 注意事項					

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	単位	4	学科	こども学科
		時間	80	授業形態	実習
担当教員	池田 悦子	開講 時期	1年後期（原則）	必選区分・ 免許・資格	保・必修
レポート期間	なし		試験期間		
実習の目的	1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する、 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について、具体的に理解をする。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的に理解する。				
実習内容	<保育所実習の内容> 1. 保育所の役割と機能 （1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり （2）保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 （1）子どもの観察とその記録による理解 （2）子どもの発達過程の理解 （3）子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 （1）保育の計画に基づく保育内容 （2）子どもの発達過程に応じた保育内容 （3）子どもの生活や遊びと保育環境 （4）子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 （1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携・協働 （3）保育士の役割と職業倫理				
成績評価方法	実習日誌の提出及び実習先評価等により総合的に評価する。 定められた時間に満たない場合は、評価されません。				
履修要件	所定の期日までの出席率が80%以上 保育実習指導Ⅰが履修済みであること				

科目名	保育実習Ⅰ（施設）	単位	2	学科	こども学科
		時間	80	授業形態	実習
担当教員	池田 悦子	開講時期	2年前期(原則)	必選区分・免許・資格	保・必修
レポート期間		なし		試験期間	
実習の目的		1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する、 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
実習内容		<児童福祉施設等（保育所以外）における実習の内容> 1. 施設の役割と機能 （1）施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり （2）施設の役割と機能 2. 子どもの理解 （1）子どもの観察とその記録 （2）個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における子どもの生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助 （2）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （3）子どもの活動と環境 （4）健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 （1）支援計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携・協働 （3）保育士の役割と職業倫理			
成績評価方法		実習日誌の提出及び実習先評価等により総合的に評価する。 定められた時間に満たない場合は、評価されません。			
履修要件		所定の期日までの出席率が80%以上 保育実習指導Ⅰが履修済みであること			

科目名	保育実習指導Ⅰ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	池田 悦子	開講	1 年前期・後半	必選区分・ 免許・資格	保・必修
		時期	1 年後期・後半		
レポート期間	保育実習Ⅰ終了後		試験期間		
授業の目的	1、 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童養護施設のそれぞれの意義を知る。 2、 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 ①実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)を学ぶ。 ②社会人のマナーやほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性を知る。 3、 実習の目標・実習課題を学ぶ。 ①実習課題の設定の仕方を学ぶ ②指導案の意味と立て方を学ぶ ③実習日誌の書き方を学ぶ 4、 実習指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。				
授業の概要	実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキスト中心に学び、自分の実習課題を考える。(演習)保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。				
授業の計画	1. 実習の意義・目的を知る 2. 保育所とは何か、その現状 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所の職場構成と連携 5. 社会人のマナー ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性 6. 保育実習の内容と方法 7. 緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について 8. 実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か 9. 実習日誌の書き方・保育指導案の立て方 10. 保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等 11. 児童養護施設の種類および特徴 12. 社会的養護の原理・原則および支援について 13. プライバシーの保護と守秘義務 14. 児童福祉施設の多職種および他機関との連携の仕方 15. 事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化				
成績評価方法	出席率、授業態度、提出物				
テキスト	授業時プリント配布				
持ち物	A4ファイル(多く入るもの)、筆記用具				
履修上の注意事項	保育実習Ⅰに向けての授業となります。未履修の場合保育実習Ⅰの実施は不可。保育実習Ⅰ開始前までに、履修すること。				

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）	単位	2	学科	こども学科
		時間	80	授業形態	実習
担当教員	坂下 拓哉 中谷 摩美	開講 時期	2年前期(原則)	必選区分・ 免許・資格	保・必修
レポート期間	なし		試験期間		
実習の目的	1. 保育所の役割や機能を具体的な実践を通してに理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育への理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する、 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけてに理解する。 6. 実習における自己の課題を明確にする。				
実習内容	<内容> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 （1）養護と教育が一体となって行われる保育 （2）保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育の理解 （1）子どもの心身の状態や観察 （2）保育士の援助や関わり （3）保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 （2）入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 （3）関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 （1）全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解 （2）作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 （1）多様な保育の展開と保育士の業務 （2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化				
成績評価方法	実習日誌の提出及び実習先評価等により総合的に評価する。 定められた時間に満たない場合は、評価されません。				
履修要件	所定の期日までの出席率が80%以上あること 保育実習指導Ⅱが履修済みであること				

科目名	保育実習Ⅲ（施設）	単位	2	学科	こども学科
		時間	80	授業形態	実習
担当教員	坂下 拓哉	開講 時期	2年前期(原則)	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
レポート期間	なし		試験期間		
実習の目的	1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障がい児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけてに理解する。 6. 実習における自己の課題を明確にする。				
実習内容	<内容> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2. 施設における支援の実際 （1）受容し、共感する態度 （2）個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 （3）個別支援計画の作成と実践 （4）子ども（利用者）の家族への支援と対応 （5）各施設における多彩な専門職との連携・協働 （6）地域社会との連携・協働 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育者としての自己の課題の明確化				
成績評価方法	実習日誌の提出及び実習先評価等により総合的に評価する。 定められた時間に満たない場合は、評価されません。				
履修要件	所定の期日までに出席率が80%以上あること。 保育実習指導Ⅲが履修済みであること。				

科目名	保育実習指導Ⅱ (保育所)	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	坂下拓哉 中谷摩美	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	・ 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ・ 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
授業の概要	保育実習Ⅱ（保育所）について目的を理解し、保育実践力を培う。保育実習Ⅰを踏まえた保育の改善を実践を通して学び、総括・自己評価を経て、保育に対する課題を明確にする。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	【事前】 第1回 保育実習による総合的な学び 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第2回 子どもの保育と保護者支援 第3回 保育実習Ⅰ（保育所）を踏まえ保育実習Ⅱに向けて 子どもの状態に応じた適切な関わり 第4回 保育の知識・技術を活かした保育実践 第5回 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 第6回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 第7回 保育士の専門性と職業倫理 第8回 事後指導における実習の総括と評価 ② 実習の総括と自己評価 ②課題の明確化 【事後】 第9回 保育実習Ⅱ振り返り 第10回 自己課題の設定、取り組み				
成績評価方法	出席率、授業態度、提出物				
テキスト	「新基本保育シリーズ 保育実習」中央法規				
持ち物	テキスト、A4ファイル（1年次保育実習指導Ⅰのファイル）、筆記用具				
履修上の 注意事項	保育実習Ⅱに向けての授業となります。未履修の場合保育実習Ⅱの実施は不可。保育実習Ⅱ開始前までに、履修すること。				

科目名	保育実習指導Ⅲ (施設)	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	坂下 拓哉	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択必修
			全		
レポート期間	なし		試験期間	授業 8 回目	
授業の目的	1. 保育実習（施設）の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 保育の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする。				
授業の概要	障がい児・者の支援についての理解・支援の実践を知り、実習に向け意義と目的を理解する 障がい児・者施設での実習に向けて基本的な知識と心構えを学ぶ ※この科目は、児童福祉施設又は社会福祉施設で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 障害者施設の役割と機能 第2回 障害児支援体制の理解 第3回 障害の理解と関わり方、保育士の役割 ～児童発達支援～ 第4回 障害の理解と関わり方、保育士の役割 ～放課後等デイサービス～ 第5回 障害の理解 第6回 実習生としての心構えと現場の実践 第7回 実習生としての心構えと現場の実践 第8回 まとめ 及び 試験				
成績評価方法	出席状況 受講態度及び試験				
テキスト	講師の指定した教本				
持ち物	テキスト 筆記用具 ノート				
履修上の 注意事項	保育実習Ⅲに向けての授業となります。未履修の場合保育実習Ⅲの実施は不可。保育実習Ⅲ開始前までに、履修すること。				

科目名	手作りおもちゃⅠ	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	小枝 玲子	開講 時期	1年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	実習に向けての下準備 現場での最低限の布の扱い方や縫い方を学ぶ				
授業の概要	手作りの大切さ、暖かさを学習する 実習中に子ども達の喜ぶ顔を思い浮かべ自分も楽しめる作品作り				
授業の計画	第1回 授業内容説明及び手芸の基礎				
	第2回 手芸の基礎				
	第3回 手芸の基礎				
	第4回 手芸の基礎				
	第5回 手芸の基礎				
	第6回 パクパク人形				
	第7回 パクパク人形				
	第8回 パクパク人形				
	第9回 軍手シアター				
	第10回 軍手シアター				
	第11回 軍手シアター				
	第12回 軍手シアター				
	第13回 実習用名札				
	第14回 実習用名札				
	第15回 実習用名札				
	第16回 実習用名札				
	成績評価方法	提出物、出席日数、授業態度			
テキスト	プリント配布				
持ち物	裁縫道具（紙用ハサミ、布用ハサミ、針は必須）、筆記用具、木工用ボンド				
履修上の 注意事項	提出物期限厳守				

科目名	折紙	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	鈴木 一美	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。(後期前半)			
授業の概要		・テキストを見て、正しく折る。 ・テキスト作品作成、提出後は折紙ファイル作成授業(後期後半)			
授業の計画		第1回 テキスト作品 第2回 テキスト作品 第3回 テキスト作品 第4回 テキスト作品 第5回 テキスト作品 第6回 テキスト作品 第7回 テキスト作品 第8回 テキスト作品 第9回 テキスト作品 第10回 オリエンテーション 第11回 折り図作成 第12回 折り図作成 第13回 折り図作成 第14回 折り図作成 第15回 折り図作成 第16回 折り図作成 ・箱を作る ・折紙講師資格の説明 ・テキストの注意点、約束事を学ぶ。 正方基本形 風船基本形 ツル基本形 二そう船基本形 魚基本形 かんのん基本形 カブト基本形 凧基本形、かえる基本形 折紙作品作成、折り図作成 折紙ファイルの作り方 後期後半の授業の進め方、説明 冬の作品作成 遊べる折紙作成 使える折紙作成			
成績評価方法		テキスト作品の出来上がり。作受講態度（私語はしない）・出席状況			
テキスト		日本折紙協会テキスト			
持ち物		テキスト、折紙、ファイル、ハサミ、カッター、のり、定規、筆記用具			
履修上の 注意事項		・テキストをよく見て正しくつくること・提出日は後期授業内に指定 <u>*事前の宿題があるので、準備して授業に臨むこと。</u>			

科目名	日誌指導Ⅱ	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	藤田 莉菜	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全		
レポート期間	随時提示（模擬日誌）		試験期間		
授業の目的	幼稚園実習に向けて、実習日誌の記録方法を学ぶ。 実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について理解を深める。				
授業の概要	幼稚園実習の日誌の書き方について演習を通して学ぶ。 実践記録としての日誌の活用方法について理解を深める。				
授業の計画	第 1 回 オリエンテーション 幼稚園と保育所の違いについて 幼稚園の特色について				
	第 2 回 週案について				
	第 3 回 実習記録の書き方説明と実践①				
	第 4 回 実習記録の書き方説明と実践②				
	第 5 回 実習記録の書き方説明と実践③				
	第 6 回 一日の反省及び考察の書き方				
	第 7 回 本日の実習目標の立て方				
	第 8 回 総括反省の書き方・自由記録の使い方 まとめ				
成績評価方法	出席率・提出物（模擬日誌）・授業態度				
テキスト	なし（配布プリントがテキストの代わりになります）				
持ち物	幼稚園教育実習簿、辞書・A4 ファイル（配布プリントをまとめる用）、筆記用具、定規 など				
履修上の 注意事項	実習準備科目の為、全出席を望みます。プリント配布や提出物がありますので、欠席した場合は必ず担当教員に自己申告をして取りに来ること。				

科目名	ペン字	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	書峰社書道	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	身上書・履歴書の作成				
授業の概要	ひらがな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書の完成を目指す。				
授業の計画	第1回 ひらがな・カタカナ（履歴書下書提出）				
	第2回 横書（「保育の3つのチカラを書く」）				
	第3回 身上書				
	第4回 身上書				
	第5回 身上書				
	第6回 履歴書				
	第7回 履歴書				
	第8回 履歴書仕上げ				
成績評価方法	受講態度 出席状況 提出物				
テキスト	プリント				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	病児保育Ⅰ	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	講義・演習
担当教員	八木 一恵	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択
			前半		
レポート期間				試験期間	
授業の目的		病児保育に関わる基礎的な内容を学ぶ。			
授業の概要		病児保育の概念や基本的理念や社会的背景を学び、様々な病児・病後児保育室の特徴を知る。			
授業の計画		第1回～第8回 病児・病児後の発達・心理を理解したうえでの遊び こどもの発達と発達段階をふまえた接し方 病気のこどもの心理 病気のこどもに安心感を与える保育・看護 病気のこどもの安静を保ちながらできるあそび ・ベッソ保育（絵本） ・室内安静（受け身の遊び） ・室内保育（やや活動的） ・子どもの好きな遊びを見つけ →興味の持てる遊びへ展開 アンパンマンの絵本→お面づくり ・こども同士の関わりのポイント ・生活習慣への配慮（手洗い） ・食事、おやつ→脱水症状の予防（水分量を計る） ・検温のタイミング ・午睡 ・記録 ・診察（医師）			
成績評価方法		出席・授業態度・提出物及び試験			
テキスト		配布された資料			
持ち物		配布された資料・筆記用具			
履修上の 注意事項					

科目名	ピアノⅢ	単位	1	学科	こども学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年前期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	各授業最終日	
授業の目的	ピアノⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。				
授業の計画	第1回 音符・休符・発想記号を正確に演奏する				
	第2回 音符・休符・発想記号を正確に演奏する				
	第3回 音符・休符・発想記号を正確に演奏する				
	第4回 速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。				
	第5回 速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。				
	第6回 速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。				
	第7回 模擬試験 速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。				
	第8回 ピアノ試験				
成績評価方法	実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価 ※ブルグミュラー25の練習曲以上を試験曲とする				
テキスト	進度に適した教本（ブルグミュラー25の練習曲以上）				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと 上靴を着用し、受講すること				

科目名	ピアノⅣ	単位	2	学科	こども学科 (保幼)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	第16週目	
授業の目的	幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。				
授業の計画	・ 音符、休符、発想記号を正確に演奏する。 ・ 曲想に適した演奏をする。 ・ 各種演奏法を取得する。 ・ 標題のついた曲（ブルグミュラー）で速度、調、拍子等それぞれの特徴を習得する。 ※以上の内容を15週目までのレッスンで習得し、16週目に試験を行う。				
成績評価方法	実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価				
テキスト	進度に適した教本（ブルグミュラー25の練習曲以上）				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと 上靴を着用し、受講すること				

科目名	こどものうたⅡ	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として必要とされる弾き歌いの技術・技能を習得する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。 こどものうたを基礎に、弾き歌いのレパートリーを拡大する。				
授業の計画	第1回 歌と伴奏のバランス				
	第2回 歌と伴奏のバランス				
	第3回 歌と伴奏のバランス				
	第4回 声をしっかり出しフレーズに合った息つぎで歌う				
	第5回 声をしっかり出しフレーズに合った息つぎで歌う				
	第6回 幼児のうたにふさわしいテンポでの演奏				
	第7回 模擬試験 幼児のうたにふさわしいテンポでの演奏				
	第8回 こどものうた試験				
成績評価方法	実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価 ＊ピアノ進度により楽譜の簡易化も可				
テキスト	こどものうた200・続こどもうた200				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習しておくこと 上靴を着用し、受講すること				

科目名	こどものうたⅢ	単位	2	学科	こども学科 (保幼)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全		
レポート期間				試験期間	授業最終日
授業の目的		保育者として必要とされる弾き歌いの技術・技能を修得する。			
授業の概要		進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。 こどものうたを基礎に、弾き歌いのレパートリーを拡大する。			
授業の計画		・発声法—姿勢、呼吸法 ・読譜力、リズムの練習 ・付点のリズムの正確な演奏 ・うたと伴奏のバランス ・主音三和音 ・歌詞をはっきりさせ声をしっかり出す ・歌詞の内容にあった表現 ・フレーズのあった息つぎ ・幼児のうたにふさわしいテンポでの演奏 ※以上の内容を15週目までのレッスンで習得し、16週目に試験を行う。			
成績評価方法		実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価 ＊ピアノ進度により楽譜の簡易化も可			
テキスト		こどものうた200・続こどものうた200			
持ち物		教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ			
履修上の		次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと			

科目名	就職指導	単位	2	学科	こども学科	
		時間	30	授業形態	講義	
担当教員	中谷 摩美 若松 幹子	開講	2年前期・11コマ	必選区分・ 免許・資格	保・必修	
		時期	2年後期・4コマ			
レポート期間			試験期間			
授業の目的	就職活動に向けて試験対策を行い、知識と意識を高め志望先に就職することを目指す					
授業の概要	・就職活動に関わる、規則、方法などを理解する ・履歴書、志望動機の作成を通して、適性を知る。 ・専門職に対する認識と責任感を養う。					
授業の計画	<前期分> 第1回 就職活動のルールを理解する。 職種を選んだ原点を知る。 自己分析により自己の適性を知る。 就職希望調査 第2回 自己分析により自己の適性を知る。自己PR作成 第3回 履歴書及び自己PR原案作成 第4回 履歴書完成（提出） 第5回 夏休み中の就職活動・対策について（公務員・実習先等） 第6回 求人票の見方、就職規定等の確認 第7回 就職活動の流れ（見学から受験、内定後）について、面接対策 第8回～11回 就職ガイダンス <後期分> 第12回 求人票の確認方法。面接時の質問意図について。 就職活動のルールの再確認。各種証明書申込みについて 第13回 内定後の書類提出について 第14回 自己理解と他者理解 職場での自己成長 第15回 アンガーマネジメント講座 ※各授業にて個別面接対策を実施します。					
成績評価方法	受講状況（出席率）及び態度及び提出物（自己PR・履歴書）					
テキスト	必要に応じプリント配布					
持ち物	履歴書、筆記用具					
履修上の 注意事項	就職ガイダンス 2コマ続きで2日間実施します。 授業態度に注意する。欠席はしないこと。14・15回目は、1月に実施します。					

科目名	パソコン（選択）	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	新田 洋子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	パソコンの普及により、文書作成や表計算、写真の加工などの処理が効率よくできるようになりました。この授業では、さらに効率よく操作するためにキーボードを見ずに入力できるよう練習し、実務に役立つ操作方法を実習します。				
授業の概要	Microsoft の Word と Excel を使用して、保護者の方へのおたよりや行動計画表、会計書類を作成します。スマートフォンやデジタルカメラの写真をパソコンに取り込んだ運動会のアルバムも作成します。				
授業の計画	第1回 ガイダンス キー操作と IME の操作 Word の文字書式と段落書式 通信文書の作成 1 第2回 入力練習（以降継続） 作表 通信文書の作成 2 第3回 ワードアート 画像の挿入と文字配置の変更 ページレイアウトの変更 運動会のプログラム作成 第4回 グリッド線と図形描画 地図の作成 第5回 Excel の画面構成 並べ替えと抽出 セルの入力・編集・削除 列幅・行高 セルの書式設定 行動計画表の作成 第6回 四則演算 給与明細書の作成 使用頻度の高い関数(SUM/AVERAGE/MAX/MIN) 第7回 提出課題の訂正 便利な関数(PHONETIC/NUMBERSTRING) 差込印刷 第8回 写真の取り込みと運動会のアルバムの作成				
成績評価方法	出席率（50％）・提出物（40％）・授業態度（10％）				
テキスト	講師配布テキスト ※紛失した場合は再配布しない				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	パソコン実習室での飲食並びに飲食物の持ち込みは厳禁。化粧品の使用も厳禁。発覚した場合、担任の先生に報告のうえ欠席扱いとする。他人のデータを借用して提出した場合は不可。進度により内容の順序を変更する場合がある。				

科目名	こどもと体育	単位	1	学科	こども学科(保幼)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	猪股 徹	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			集中		
レポート期間			試験期間	授業の中で随時実施	
授業の目的	運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。				
授業の概要	発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。				
授業の計画	1. 社会的背景を考慮しつつ ①地域社会、社会環境の変化について ②遊び空間、時間、遊びの仲間、遊び方法の変化について 2. こどもの発育と運動遊びについて ①身体・形態・機能・こころの発育発達 ②こどもの運動能力と運動技能の発達 3. 基本的な動き ①基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登） ②運動の機能（調整力：身体認知・空間認知） 4. 用具を使わない遊び ①年齢発達における遊び（ふれあい遊び、ごっこ遊び等） ②グループ遊び（おおかみさん、はないちもんめ、鬼遊び等） 5. 小型遊具を使った遊び ①個人での競争遊び（縄跳び、輪投げ、フープくぐり遊び等） ②グループでの競争遊び（おいかけっこ、ティーボールラン等） 6. 操作性遊具や器具、身近な素材活用遊び ①操作性遊具・器具活用遊び（ボール、フープ、縄、棒活用遊び等） ②身近な素材活用遊び（新聞紙、タオル、段ボール、ペットボトル遊び等） 7. 野外での幼児の遊び ①野外活動の教育的意義と実践上の理解 ②野外活動の実践（砂・泥・川遊び、雪・そり遊び、プール遊び、キャンプ等） 8. 遊びと安全管理 ①安全管理について（安全の考え方、物的管理、人的管理、援助指導における安全性の配慮、野外活動における安全面配慮、移動遊具・固定遊具の点検と活用時の安全配慮 等）				
成績評価方法	授業への意欲、服装、発表内容など				
テキスト	なし				

持ち物	タオル・飲み物・筆記用具
履修上の 注意事項	ジャージ着用（パーカーや洋服のままは禁止）・上靴・アクセサリー禁止・髪 の長い学生は髪をまとめる ※上記が守られない場合は、減点対象となります

科目名	こどもと体育	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	猪股 徹	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業の中で随時実施	
授業の目的	運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。				
授業の概要	発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。				
授業の計画	1. 社会的背景を考慮しつつ ①地域社会、社会環境の変化について ②遊び空間、時間、遊びの仲間、遊び方法の変化について 2. こどもの発育と運動遊びについて ①身体・形態・機能・こころの発育発達 ②こどもの運動能力と運動技能の発達 3. 基本的な動き ①基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登） ②運動の機能（調整力：身体認知・空間認知） 4. 用具を使わない遊び ①年齢発達における遊び（ふれあい遊び、ごっこ遊び等） ②グループ遊び（おおかみさん、はないちもんめ、鬼遊び等） 5. 小型遊具を使った遊び ①個人での競争遊び（縄跳び、輪投げ、フープくぐり遊び等） ②グループでの競争遊び（おいかけっこ、ティーボールラン等） 6. 操作性遊具や器具、身近な素材活用遊び ①操作性遊具・器具活用遊び（ボール、フープ、縄、棒活用遊び等） ②身近な素材活用遊び（新聞紙、タオル、段ボール、ペットボトル遊び等） 7. 野外での幼児の遊び ①野外活動の教育的意義と実践上の理解 ②野外活動の実践（砂・泥・川遊び、雪・そり遊び、プール遊び、キャンプ等） 8. 遊びと安全管理 ①安全管理について（安全の考え方、物的管理、人的管理、援助指導における安全性の配慮、野外活動における安全面配慮、移動遊具・固定遊具の点検と活用時の安全配慮 等）				
成績評価方法	授業への意欲、服装、発表内容など				
テキスト	なし				

持ち物	タオル・飲み物・筆記用具
履修上の 注意事項	ジャージ着用（パーカーや洋服のままは禁止）・上靴・アクセサリ禁止・髪の毛の長い学生は髪をまとめる ※上記が守られない場合は、減点対象となります

科目名	こどもと食育	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	野原 純子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			後半		
レポート期間	講師より提示		試験期間	授業最終日	
授業の目的	子どもの食育に関する体験活動と食育推進活動の実践方法について学ぶ				
授業の概要	野菜栽培、栄養の基本、盛り付けの工夫など保育所を含めた児童福祉施設での具体的は実践方法について学ぶ。				
授業の計画	1回目：食べ物について（注意したい食品・食材・外食メニュー） 2回目：食物アレルギーについて 3回目：食べ物とマナーについて（箸づかい・箸づかいのタブー） 4回目：食べ物と人間関係 5回目：食べ物と健康 6回目：食べ物の栄養について 7回目：調理の仕方（切り方・食材・加熱時間・味付け） 8回目：食育計画				
成績評価方法	出席状況、受講態度				
テキスト	配布されたプリント				
持ち物	筆記用具他講師が指定したもの				
履修上の 注意事項	積極的姿勢で授業に参加して下さい。				

科目名	カリキュラム立案	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	幼・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	カリキュラム立案の大切さを理解する。 幼稚園実習に向けて、立案の考え方と手順を学習する。				
授業の概要	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、部分案（設定保育）・1 日案を立案する。 活動の展開に沿った保育者の援助を、適切な表現で記入する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 カリキュラムとは ・カリキュラムの構成について ・ねらいの立て方、指導案記入時の言葉遣いについて ・実習生に適した活動内容 カリキュラムの書き方（製作案）				
	第 2 回 カリキュラム立案（製作案）①				
	第 3 回 カリキュラム立案（製作案）②				
	第 4 回 カリキュラムの書き方（ゲーム案）				
	第 5 回 カリキュラム立案（ゲーム案）①				
	第 6 回 カリキュラム立案（ゲーム案）②				
	第 7 回 カリキュラムの書き方（1 日案）①				
	第 8 回 カリキュラムの書き方（1 日案）② 幼稚園実習に向けて（まとめ）				
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物等、総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	A 4 ポケットファイル・筆記用具				
履修上の 注意事項	意欲的に授業に参加すること 提出物の未提出・提出遅れは認めない				

科目名	幼稚園教育要領	単位	2	学科	こども学科
		時間	30	授業形態	講義
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・幼 選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	随時	
授業の目的	幼稚園教育要領に沿った、幼稚園や教師の役割について学びを深める				
授業の概要	・幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学び、幼稚園での生活・保育・教育の取り組みを知る。 ・幼稚園の実際を理解し、活用の方法を学ぶ。				
授業の計画	第1回 幼稚園実習の振り返り（教諭の姿、子どもの姿、活動、環境等） 幼稚園教育要領とは 第2回 幼稚園教育要領全体の概要 第3回 幼稚園教育要領の歴史・改訂について 第4回 認定こども園について 第5回 第1章 総則 第6回 第2章＜五領域＞健康 第7回 健康～幼稚園での取り組み① 第8回 健康～幼稚園での取り組み② 第9回 健康～生活習慣について 第10回 ＜五領域＞人間関係 第11回 ＜五領域＞環境 第12回 ＜五領域＞言葉 第13回 ＜五領域＞表現 第14回 小テスト 第15回 第3章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動 などの留意事項 第16回 まとめ、最終試験				
成績評価方法	出席状況、小テスト、提出物、受講態度、試験を総合的に評価				
テキスト	「幼稚園教育要領解説」				
持ち物	テキスト、蛍光マーカー、A4ファイル（ポケットタイプ）				
履修上の 注意事項	プリント配布や提出物があるので、欠席した場合は必ずその都度、担当教員まで確認に来ること				

科目名	こどもの理解と相談支援	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	高本 美明	開講 時期	2 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・必修
			後半		
レポート期間		講師の指定した日		試験期間	授業最終日
授業の目的		こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学ぶ。 より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。			
授業の概要		・ 幼児、児童。生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。 ・ カウンセリングの基礎的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。 ※この科目は、児童福祉施設で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第1回 ・ こどもの実態に応じた発達や学びの把握 ・ 相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本とカウンセリングの基本的な方法(受容の程度と共感、傾聴) 第2回 ・ こどもを理解する視点①(こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験) ・ こどもを理解する視点②(葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行) 第3回 ・ こどもを理解する方法①(知能検査・発達検査・行動観察法、他) ・ こどもを理解する方法②(観察・記録・省察・評価) 第4回 ・ こどもを理解する方法③(職員間の情報共有、保護者との情報共有) ・ こどもの自己理解を進める技法 こどもの自己表現と自己理解の発達 第5回 ・ 幼児・こども理解とカウンセリング・マインド(実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める) ・ 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援 第6回 ・ 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援 ・ 相談支援の実際①(発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち) 第7回 ・ 相談支援の実際②(不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント) ・ 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援(幼・小の連携、親との連携) 第8回 ・ 相談支援の課題と対応(教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成)			
成績評価方法		出席率・試験			
テキスト		講師指定			
持ち物		筆記用具			
履修上の注意事項		積極的に授業に参加すること			

科目名	障がい者福祉論(選択)	単位	1	学科	こども学科(保幼)
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	荒 洋一	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択
			後半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	障がい（身体・知的・精神・発達）のある方達に対する我が国における福祉法制度・施策等を学び、福祉支援を提供する側にとって必要とされる支援スタッフの資質とは何かを知り、現場での即戦力となれるようその力を養うことを目的とする				
授業の概要	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習し、障がい当事者の人権擁護に務め、基本的人権を尊重する姿勢を持つ事が出来るよう、障がい当事者の意見を直接聞く機会を設定するなどを授業の流れとする				
授業の計画	第1回 講義概要と対象とする障がいの範囲と表記について 第2回 発達障がいについて 障がい種別と支援の方法等 第3回 精神障がいの疾病について 第4回 身体障がいについて 対象となる障がい種別と障がい当事者を招き、バリアフリー等の状況を学ぶ 第5回 知的障がいについて 障がい特性を学習し、障がい当事者を招き交流する。 第6回 障がいの原因について及びダウン症等の支援の在り方 第7回 障害者総合支援法について 指定支援事業種別等 第8回 まとめテスト				
成績評価方法	試験及び出席状況と授業態度等、総合的に評価する				
テキスト	無し				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に気を付け、積極的に授業に参加する事				

科目名	障がい者福祉論	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	荒 洋一	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	障がい（身体・知的・精神・発達）のある方達に対する我が国における福祉法制度・施策等を学び、福祉支援を提供する側にとって必要とされる支援スタッフの資質とは何かを知り、現場での即戦力となれるようその力を養うことを目的とする				
授業の概要	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習し、障がい当事者の人権擁護に務め、基本的人権を尊重する姿勢を持つ事が出来るよう、障がい当事者の意見を直接聞く機会を設定するなどを授業の流れとする				
授業の計画	第1回 講義概要と対象とする障がいの範囲と表記について 第2回 発達障がいについて 障がい種別と支援の方法等 第3回 精神障がいの疾病について 第4回 身体障がいについて 対象となる障がい種別と障がい当事者を招き、バリアフリー等の状況を学ぶ 第5回 知的障がいについて 障がい特性を学習し、障がい当事者を招き交流する。 第6回 障がいの原因について及びダウン症等の支援の在り方 第7回 障害者総合支援法について 指定支援事業種別等 第8回 まとめテスト				
成績評価方法	試験及び出席状況と授業態度等、総合的に評価する				
テキスト	無し				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に気を付け、積極的に授業に参加する事				

科目名	病児保育Ⅱ	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	講義・演習
担当教員	八木 一恵	開講 時期	2年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	病児保育に関わる基礎的な内容を学ぶ。				
授業の概要	病児保育の概念や基本的理念や社会的背景を学び、様々な病児・病後児保育室の特徴を知る。				
授業の計画	第1回～第8回				
	病児・病児後保育における感染症対策 感染経路を理解したうえでの対策 病児・病後児保育における感染対策の実践ポイント 注意が必要な主な感染症とその対策 予防接種 子どもが病気の時の保護者支援 キーワード ・ 隔離室での保育 ・ 記録 ・ 保育終了後の業務（消毒） ・ 家庭との連携 ・ 連絡表の記入と確認→情報共有 ・ 地域との連携→おたより発行 ・ 自己評価 ＜必要な看護の専門性＞ ＜必要な保育も専門性＞				
成績評価方法	出席・授業態度・提出物及び試験				
テキスト	配布された資料				
持ち物	配布された資料・筆記用具				
履修上の 注意事項					

科目名	こどもの看護	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	講義・演習
担当教員	救命防災リーダーズ札幌 池田 潔子	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択
			集中		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	子ども（乳幼児期）のかかりやすい病気や発熱・けいれんなどの症状に対する手当や起こりやすい事故の予防とその手当が出来るようになる。				
授業の概要	救命防災リーダーズ札幌のプログラム（一般救命講習Ⅲ）を併修する。				
授業の計画	第1 回～第8 回 ・一般救命講習Ⅲ ※授業概要と同様 ・講義 ① 誤飲事故の具体的事例及び対応 ② 事故の起こりやすい場所と事故の内容 ③ 子ども（乳幼児）の事故予防 ④ 環境整備 ⑤ 安全教育 ⑥ 子ども（乳幼児）の運動機能				
成績評価方法	講習の出席状況及び技術の習熟度・講義の出席状況及び受講態度を総合的に評価する				
テキスト	配布された資料				
持ち物	配布された資料・筆記用具				
履修上の 注意事項					

科目名	こどもの救命Ⅰ	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	講義・演習
担当教員	救命防災リーダーズ札幌 中谷 摩美	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択
			集中		
レポート期間				試験期間	
授業の目的		高度救命講習修了証の取得を目指す。			
授業の概要		心肺蘇生法やAEDの使い方に加え、外傷の手当、傷病者の管理・搬送法など幅広い一時救命措置を学ぶ			
授業の計画		第1回～第8回 ・高度救命講習 ※授業概要と同様 ・振り返り、レポート作成			
成績評価方法		レポート・高等救命講習修了者を評価			
テキスト		指定されたテキスト			
持ち物		指定されたテキスト			
履修上の 注意事項		一般救命講習Ⅲ修了者のみ受講可			

科目名	手話（選択）	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	若浜 ひろ子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			後半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学ぶ。また聴覚障害についても学び、手話との関連を理解する。聴覚障害についての基礎知識と自己紹介や日常生活など身近な話題に関する手話表現を学び、コミュニケーション意欲を高める。				
授業の概要	手話の成り立ちや聴覚障害者の生活について学習し、手話言語について知識を深める。会話例文を用いて基本的な手話表現技術を身につけることによって、手話によるコミュニケーション方法を学ぶ。				
授業の計画	第1回 授業の説明と注意事項 理論「聴覚障害の基礎知識」 実技「身振りで伝える」イメージ力をつける基礎知識				
	第2回 理論「手話の基礎知識」 挨拶、自己紹介、家族の手話表現 指文字で伝える				
	第3回 DVD鑑賞「わたしの大切な家族」・レポート 理論「福祉制度について」				
	第4回 家族、数の手話表現				
	第5回 理論「聴覚障害者の生活について」 趣味の手話表現、2人組で会話表現 時に関する手話表現Ⅰ				
	第6回 時に関する手話表現Ⅱ 会話練習Ⅰ（保育園で場面）				
	第7回 会話練習Ⅱ（保育園で場面） 読み取りの事前練習				
	第8回 実技試験（読み取り・小論文）				
成績評価方法	実技試験及び小論文・出席状況・授業態度などを総合的に評価する。				
テキスト	「さっぽろの手話」公益社団法人札幌聴覚障害者協会発行				
持ち物	テキスト、筆記用具				
履修上の 注意事項	授業に積極的に参加し、互いに協力しあってコミュニケーション力を高める。				

科目名	保育の英会話（選択）	単位	1	学科	こども学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	田中 純一	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			後半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	コミュニケーション・ツールとしての英語を念頭に、演習・ゲーム・歌などを通じて日常的な英語を身に付け、実践的なコミュニケーション能力を育成する。				
授業の概要	英語の挨拶・わらべ歌・ゲームで口慣らしをします。その後プリントを配布、要点が解説され、演習問題に各自が取り組み発表し、それを添削し正解が解説されます。さらに会話形式で質問・応答練習ならびに音声教材を利用したリスニング練習を行います。				
授業の計画	第1回 登園時・降園時の会話				
	第2回 ありがとうの表現				
	第3回 排泄				
	第4回 食事				
	第5回 褒め言葉				
	第6回 注意する言葉				
	第7回 保健子供の状態を表す表現				
	第8回 インタビューテスト				
成績評価方法	面接試験（インタビューテスト）・授業態度・出席状況で評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	筆記用具・英和辞典または電子辞書を持参のこと				
履修上の 注意事項	授業中の携帯電話辞書使用は禁止とする				

科目名	人形劇（選択）	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	鈴木 楓	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全（週2回）		
レポート期間			試験期間	発表会当日	
授業の目的	人形劇の成り立ちや作成過程への理解を深め、作品や人形製作の基礎を身に付け、実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。				
授業の概要	これまでの授業で学んだ実践活動や製作活動を活かし、仲間と協力をして台本・人形・小道具を作り上げ、演じるまでの一連の流れを体験し、人形劇作品を完成させる。				
授業の計画	第1週	授業説明、人形劇の理解（成り立ち、人形の種類） 人形劇完成までの流れ（台本→人形・小道具製作→演出→発表） ビデオ鑑賞からの学び（NHK 人形劇・卒業生の人形劇発表映像）			
	第2週	グループ決定、グループ活動（作品・役割り分担の話し合い） シナリオの構成について（起用転結の効果的な構成の仕方）			
	第3週	台本作成（話の大まかな流れの話し合い）・人形土台の作成			
	第4週	台本作成（セリフ・細かな流れの決定の話し合い）・人形の形成			
	第5週	人形作成（土台やすりがけ）・衣装の作成（デザイン・型紙おこし）			
	第6週	人形作成（新聞紙と半紙貼り）・衣装の作成（布裁断・縫製）			
	第7週	人形作成（色塗り・表情入れ）・衣装の作成（布裁断・縫製）			
	第8週	人形作成（ニス塗り・頭髮付け）・背景デザイン（下書き）			
	第9週	人形作成（衣装の取り付け・完成）・背景デザイン（色塗り）			
	第10週	小道具作成・背景デザイン（色塗り）			
	第11週	小道具作成・			
	第12週	台本読み合わせ（ピアノ・効果音・照明の脚色）			
	第13週	演技指導（人形の動かし方、舞台の使用方法の指導と実践）			
	第14週	演技練習①（舞台上で動かし、全体の流れを見ながら演技の修正や補足を行う）			
	第15週	演技練習②（舞台上で動かし、全体の流れを見ながら演技の修正や補足を行う）			
	第16週	演技練習③（作品完成） ※毎回グループで話し合いをし、作業を分担しながら作成していく			
	成績評価方法	出席状況・授業態度・発表内容を総合的に評価する			
テキスト	プリント配布				
持ち物	随時提示				
履修上の 注意事項	協調性を持ち、一人ひとりが作品完成に向けて意欲的に参加すること				

科目名	オペレッタ（選択）	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	中山 瞳	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全（週2回）		
レポート期間			試験期間	発表会当日	
授業の目的	実践を通して自らの感性を磨き、イメージ豊かで多様な表現活動を目指す。				
授業の概要	卒業発表に向け、これまでの授業で学んだ実践活動（ピアノ、歌、踊り、演技、製作など）を活かし、それぞれが工夫した表現を考察し、楽しんで表現し、協力しながら作品を作り上げていく。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 幼児の表現活動について（遊戯 歌 劇 舞踊劇等） オペレッタについて（歌 音楽 劇のバランス 小道具など） ビデオ鑑賞①（作品をみての感想）				
	第2回 作品が完成するまでの過程 音楽の効果など知る ビデオ鑑賞②				
	第3回 卒業発表に向け、作品を決める（配役・役割り分担）				
	第4回 台本、うた、音楽（効果音）づくり				
	第5回 台本、うた、音楽（効果音）づくり				
	第6回 台本、うた、音楽（効果音）づくり				
	第7回 台本読み合わせ、台本に合わせて練習				
	第8回 練習 大道具づくり				
	第9回 練習 大道具づくり				
	第10回 練習 大道具づくり				
	第11回 練習 衣装 大道具完成				
	第12回 練習 衣装 小道具づくり				
	第13回 練習 衣装 小道具づくり				
	第14回 練習 衣装 小道具づくり 手直し				
	第15回 練習 衣装をつけて練習 手直し				
	第16回 練習				
	成績評価方法	出席状況、授業態度			
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具、上靴着用 ※道具作成時や踊り、舞台上の動き確認等するときにはジャージなど動きやすい服装が望ましい				
履修上の 注意事項	協調性を持ち、一人ひとりが意欲的に参加すること				

科目名	育児コミュニケーション (選択)	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	楠木 絵美	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全(週2コマ)		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	育児についての知識を深め、現代の育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持てるようにする。				
授業の概要	実際に地域の親子と関わり、育児の重要性、育児の現状について知る。				
授業の計画	第1回 親子との関わり方の注意点・留意点について事前学習する。 第2回 地域の施設へのボランティア活動 第3回 育児広場開催に向けての準備 第4回 育児広場開催 第5回 地域の施設へのボランティア活動 第6回 育児広場開催に向けての準備 第7回 育児広場開催 第8回 地域の施設へのボランティア活動 第9回 育児広場開催に向けての準備 第10回 育児広場開催に向けての準備 第11回 地域の施設へのボランティア活動 第12回 育児広場開催 第13回 地域の施設へのボランティア活動 第14回 育児広場開催 第15回 地域の施設へのボランティア活動 第16回 まとめ・反省会				
成績評価方法	授業態度・提出物				
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具、ボランティア先から指定されたもの				
履修上の 注意事項	服装、身だしなみ				

科目名	絵本・紙芝居Ⅱ（選択）	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	担当講師	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全（週2コマ）		
レポート期間			試験期間	発表会当日	
授業の目的	絵本・紙芝居についての理解を深める。 大型紙芝居、絵本製作の基礎知識を学び、製作し発表する。				
授業の概要	発表会に向け、「絵本・紙芝居」の授業を生かし、製作・発表する。				
授業の計画	第1回 授業について 授業の評価について 題材探し、題材決定				
	第2回 ミニ絵本製作、台本班・仕掛け班のグループ分け				
	第3回 製作（下書き）				
	第4回 製作（下書き）				
	第5回 製作（下書き）				
	第6回 製作（下書き）				
	第7回 製作（色塗り）				
	第8回 製作（色塗り）				
	第9回 製作（色塗り）				
	第10回 製作（色塗り）				
	第11回 製作（色塗り）、発表会の役割決め（各担当の活動）				
	第12回 製作（色塗り）、各担当の活動				
	第13回 製作（色塗り・完成）				
	第14回 発表練習・修正				
	第15回 発表練習・修正				
	第16回 発表練習				
	成績評価方法	出席状況、受講態度、定期試験（発表）			
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具 適宜、授業内で次回の授業の持ち物は伝えます（ハサミ、定規（30cm）、カッター等）				
履修上の 注意事項	・卒業に向けての授業となるので、全員で協力しながら授業に積極的に参加すること。				

科目名	ボランティア（選択）	単位	4	学科	こども学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	中谷 摩美	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			全（週2回）		
レポート期間	授業最終日		試験期間		
授業の目的	福祉施設でのボランティア活動をととして、利用者とのコミュニケーションを図る。 福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。				
授業の概要	毎週、札幌市内の小規模作業所に出向き、利用者と共に作業を行う。または、余暇活動に参加させてもらう。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション 諸注意事項の確認 ボランティア先の選定				
	第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 振り返り 反省点、学んだことなどをレポートにまとめる				
成績評価方法	出席状況 ボランティア日誌の提出状況				
テキスト	特になし				
持ち物	ボランティア日誌、ボランティア先から指定されたもの				
履修上の 注意事項	ボランティア日誌は必ず持参する事。ボランティア終了後はボランティア先より出席確認印をもらい、必要事項を記入し毎回提出すること				

科目名	手作り教材（選択）	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	池田 悦子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			前半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	身近な素材・教材等の特性を理解し、作成及び活用方法を学ぶ。				
授業の概要	・こどもの遊びやイメージが豊かになる具体的な教材を作成します。 ・0・1・2歳児向けの教材の活用法を製作と遊びで体験する。				
授業の計画	1、 オリエンテーション つまむ活動を取り入れた造形活動 2、 スクリブルを取り入れた造形活動 3、 0・1歳児向けの感覚を豊かにする教材づくり（Ⅰ） 4、 0・1歳児向けの感覚を豊かにする教材づくり（Ⅱ） 5、 触覚を豊かにする教材の製作 6、 発想力を豊かにする教材の製作（Ⅰ） 7、 発想力を豊かにする教材の製作（Ⅱ） 8、 振り返り・まとめ 0・1・2歳児向けの教材の今後の課題				
成績評価方法	作品提出・日常点				
テキスト	参考資料・復習のための手作りテキストを配布				
持ち物	ハサミ・カッター・セロハンテープ・ホチキス・木工用ボンド・30㎝定規 コンパス・ノート（B5のプリントが貼れる）または B5ファイル 30 ポケット 筆記用具・お道具袋、クレヨン、絵の具、筆				
履修上の 注意事項	将来の仕事に役立てる様、配布テキスト・作品は保管しておきましょう。				

科目名	ピアノⅤ（選択）	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			前半		
レポート期間			試験期間	第8週目	
授業の目的	幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。				
授業の計画	・ 音符、休符、発想記号を正確に演奏する。 ・ 曲想に適した演奏をする。 ・ 各種演奏法を取得する。 ・ 標題のついた曲（ブルグミュラー）で速度、調、拍子等それぞれの特徴を習得する。 ※以上の内容を7週目までのレッスンで習得し、8週目に試験を行う。				
成績評価方法	実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価				
テキスト	進度に適した教本（ブルグミュラー25の練習曲以上）				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと 上靴を着用し、受講すること				

科目名	こどものうたⅣ (選択)	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2 年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			後半		
レポート期間			試験期間	第 8 週目	
授業の目的	保育者として必要とされる弾き歌いの技術・技能を修得する。				
授業の概要	進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。 こどものうたを基礎に、弾き歌いのレパートリーを拡大する。				
授業の計画	・発声法—姿勢、呼吸法 ・読譜力、リズムの練習 ・付点のリズムの正確な演奏 ・うたと伴奏のバランス ・主音三和音 ・歌詞をはっきりさせ声をしっかり出す ・歌詞の内容にあった表現 ・フレーズのあった息つぎ ・幼児のうたにふさわしいテンポでの演奏 ※以上の内容を 1 5 週目までのレッスンで習得し、 1 6 週目に試験を行う。				
成績評価方法	実技試験(80%)・出席状況及び受講態度(20%)を総合的に評価 ＊ピアノ進度により楽譜の簡易化も可				
テキスト	こどものうた 2 0 0 ・続こどものうた 2 0 0				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと 上靴を着用し、受講すること				

科目名	介護概論（選択）	単位	1	学科	こども学科(保)
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	末岡 陽子	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	介護について理解を深めると共に、実際に行う為に必要な知識を身につける。				
授業の概要	介護とは何かを総体的に理解し、人間が生活するとはどういう事かを学習する。				
授業の計画	第1回 介護とは、QOLとは、健康とは何か 第2回 自立と自立支援、受容、ノーマライゼーション 第3回 生命の安全、自己決定、マズローの5段階欲求 第4回 観察の技法と目的 第5回 コミュニケーションの技法、認知症とは 第6回 障害の概要（ICIDHとICF、医学モデルと社会モデル） 第7回 生活範囲の拡大（ADLとIADL） 介護者の健康管理 第8回 筆記試験				
成績評価方法	定期試験				
テキスト	プリント使用				
持ち物	ノート 筆記用具 プリント				
履修上の 注意事項	プリントの再配布はしません。 紛失に注意すること。				

科目名	保育演習Ⅰ	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	鏑木 絵美 持丸 智美 他	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択
			全		
レポート期間	担当教員の指定日		試験期間		
授業の目的	・保育・福祉分野等、多様化する保育・福祉施設で実際にかかわり、業務を実践することにより、活躍できる資質や専門性を習得する ・様々な対象者の命を守る、預かること、また様々な場面や緊急時に対応できる知識や技術を身に付ける				
授業の概要	保育・福祉分野等、多様化する保育・福祉施設で実際に乳幼児等と関わり、業務を実践することにより、保育士としての資質の向上及び専門性を高める。座学にて知識や技術を学び、保育・福祉現場で実践、振り返り、自己課題の発見に努める。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 保育所・施設見学実習オリエンテーション 第2回 保育所見学実習での部分実習事前準備：発表内容検討・決定 第3回 発表内容練習及び準備 第4回 発表及び総括 第5回 保育所見学・参加実習、各クラスにて部分実習 第6回 保育所見学・参加実習、各クラスにて部分実習 第7回 施設見学・作業体験 第8回 保育演習Ⅰ（施設）オリエンテーション 第9回 保育演習Ⅰ（保育所）オリエンテーション 第10回 児童養護施設見学 第11回 福祉施設見学・参加実習（保育所・施設等） 第12回 福祉施設見学・参加実習（保育所・施設等） 第13回 福祉施設見学・参加実習（保育所・施設等） 第14回 福祉施設見学・参加実習（保育所・施設等） 第15回 振り返り・反省・報告				
成績評価方法	各現場実習での見学・参加態度、出席状況、見学実習簿記入及び、提出状況				
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具、ファイル（A4ポケット）				
履修上の 注意事項	・現場での実践が中心となる為、体調をしっかり管理すること ・挨拶、言葉遣い等基本的マナーを常に心掛けて学ばせていただくこと ・各現場の指示（持ち物、服装、行動、情報等）に必ず従うこと ・提出物は期間内に遅れの場合は減点、未提出の場合不可とする				

科目名	保育演習Ⅱ	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	加福 圭子 鏑木 絵美 他	開講 時期	2年前期	必選区分・ 資格・免許	保・選択
			全		
レポート期間	担当講師より提示		試験期間		
授業の目的	・保育・福祉分野等、多様化する保育・福祉施設で実際にかかわり、業務を実践することにより、活躍できる資質や専門性を習得する ・様々な対象者の命を守る、預かること、また様々な場面や緊急時に対応できる知識や技術を身に付ける				
授業の概要	・学校で「知識や技術」を学び、保育・福祉現場で「実践」し、しっかりと「振り返り」を行うサイクルにて実践力を学校と現場での学びを通して、身に付ける				
授業の計画	第1～2回目 小規模保育事業・事業内保育所等オリエンテーション 				

科目名	保育演習Ⅲ	単位	2	学科	こども学科(保)
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	鏑木 絵美 持丸 智美 他	開講 時期	2年後期	必選区分・ 資格・免許	保・選択
			全		
レポート期間	担当講師より提示		試験期間		
授業の目的	・保育・福祉分野等、多様化する保育・福祉施設で実際にかかわり、業務を実践することにより、活躍できる資質や専門性を習得する ・様々な対象者の命を守る、預かること、また様々な場面や緊急時に対応できる知識や技術を身に付ける				
授業の概要	・学校で「知識や技術」を学び、保育・福祉現場で「実践」し、しっかりと「振り返り」を行うサイクルにて実践力を学校と現場での学びを通して、身に付ける				
授業の計画	第1～2回目 就労支援、生活支援、発達支援事業オリエンテーション (事前学習)				
	第3～14回目 保育体験学習 就労支援 生活支援 発達支援センターなど 第15・16回目 振り返り 全6回の体験学習を通して、学んだ支援内容や保育士の役目について振り返り、全員で共有し、学びをふかめる。				
成績評価方法	各現場実習での見学・参加態度、出席状況、見学実習簿記入及び、提出状況				
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具、ファイル（A4ポケット）				
履修上の 注意事項	・現場での実践が中心となる為、体調をしっかり管理すること ・挨拶、言葉遣い等基本的マナーを常に心掛けて学ばせていただくこと ・各現場の指示（持ち物、服装、行動、情報等）に必ず従うこと				